

P D C A チェックシート (平成 25 年度実績評価)

事業概要							担当局	市民文化スポーツ局
							担当課	自然史・歴史博物館普及課
							課長名	栗原
事業名	博物館セカンドスクール事業						施策番号	
							I - 1 - (2) - ⑤	
事業概要	博物館を第二の学校と位置づけ、修学旅行・社会見学など学校教育の一環として、子どもたちの博物館利用の促進を図るものです。						事業手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()
								コスト 事業費

【Action】改善

課題	H23年度の評価結果を受けての課題 ・学校団体、特に修学旅行の誘致。 ・受入れ体制の確保。	見直し内容	当博物館は、社会教育施設としての役割に加え、地域の賑わいの拠点施設として、市内外から多数の来館者があります。中でもセカンドスクールとして学校団体の来館数も多く、修学旅行の大半は県外からの来館です。今後は、本市が進める「北九州市新成長戦略」に掲げる「にぎわいづくりによる集客交流産業の拡充」の一環として、修学旅行の誘致に努めていきます。また、修学旅行等は来館時期が重なることから、ボランティアの協力を得るなどして受入れ体制の確保に努めていきます。
----	---	-------	--

【Plan】計画

【Do】実施 → 【Check】評価

目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	大変順調
	学校団体	博物館を第二の学校(教室)としてとらえ、子どもたちの来館機会を創出し、新しい発見や感動をもとに理科・社会科への学習の意欲を持たせる仕組みづくりを行うため、(1)博物館への誘致事業、(2)学校教育支援事業、(3)家庭教育支援事業、の3つの柱をかけた、学校教育現場と博物館の結びつきを強めます。	25年度実績(達成率)	25年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標		
	学校団体誘致数	1,145 団体	1,000 団体	1,370 団体	修学旅行の誘致活動を積極的に行った結果、その効果もあり目標達成率の大幅な増加となりました。
	博物館を訪れる学校団体を増やすため、市内市外の学校関係者などへの誘致活動を行い、来館者数の確保に努めます。 (最終目標と目標年度) 1,000団体 平成25年度	1,116 団体		137.0 %	
	学校関係入館者数	74,210 人	70,000 人	92,760 人	
修学旅行、社会見学等、総合的な学習の時間などでの学校関係者の博物館利用の促進を図ります。 (最終目標と目標年度) 70,000人 平成25年度	78,290 人		132.5 %		

活動計画	どうやって目的を達成するか	修学旅行、社会見学、総合的な学習の時間などでの博物館利用の促進を図るため、来館状況の分析に基づく誘致活動を行います。特に、県内の来館実績の少ない地域へのPR活動の強化を図ります。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	大変順調
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	誘致活動延べ日数	11 日	10 日	12 日	特に来館者が多い県の旅行社や、今後新たに来館が見込まれる県などでの誘致活動を積極的に行いました。
	修学旅行、社会見学、総合的な学習の時間などでの博物館利用が促進されるよう、旅行会社等に対する誘致活動を実施します。	12 日		120.0 %	
			%		

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	活動の状況については、各教育委員会等との連携を図りながら、セカンドスクール事業への理解を得ることができたことにより入館者数の増加につながったことから大変順調としました。 成果の状況については、大幅に目標の値を達成したことから、大変順調としました。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点	来館状況の分析に基づく誘致活動計画を作成し、関係先教育委員会や旅行社への誘致活動を絞り込み、効率性を高めるよう努めました。

P D C A チェックシート (平成 25 年度実績評価)

事業概要							
事業名	文学館普及研究費					担当局	市民文化スポーツ局
						担当課	文学館
事業概要	北九州市ゆかりの文学者の業績を企画展等で紹介し、本市の文芸の振興に功績のあった文学者を市内外に発信していきます。					課長名	米満
						施策番号	
コスト	事業費	25年度当初予算額	25年度執行額	(事業費備考)	人件費	目安の金額	課長 0.50 人
		20,104 千円	18,923 千円			12,625 千円	係長 0.50 人 職員 0.25 人
事業手法 <input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 () (人件費備考)							

【Action】改善

課題	H23年度の評価結果を受けての課題	平成24年度の文学館の入館者数は、夏休み企画展が好評だったため前年度と比較し増え、目標を達成しました。引き続き、特別企画展や企画展、講演会や文学講座等のイベントを実施し、入館者の拡大に努めます。	見直し内容	定期的に魅力ある企画展を開催するとともに、文学に関心を持ってもらう講座を実施し、大人から子どもまで文学に親しむ機会を提供します。
----	-------------------	---	-------	--

【Plan】計画

【Do】実施 → 【Check】評価

目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	順調
市民		北九州市ゆかりの文学者の業績を企画展等で紹介し、本市の文芸の振興に功績のあった文学者を市内外に発信することにより、大人から子どもまで文学に親しむ機会が拡大し、豊かな感性の育成と教養文化の向上に繋がります。			
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	上段: 23年度実績 下段: 24年度実績	25年度目標	25年度実績 (達成率)	成果の状況 評価理由
	文学館企画展の入館者数	10,741 人	13,000 人	13,211 人	
	本市ゆかりの文学者や全国的に著名な作家などの展覧会のほか、文学に関連する企画展を充実させ、多くの方へ偉人・先人の業績を伝えます。 (最終目標と目標年度) 13,000人 平成25年度	13,349 人			101.6 %
	(最終目標と目標年度)			%	

活動計画	どうやって目的を達成するか	より多くの市民に文学館の存在を知ってもらい、文学館に親しんでもらうため、文学館の本来目的である北九州ゆかりの文学者に関する自主企画展とともに、集客効果の高い(一般的な認知度と人気が高い)展覧会の開催に重点を置き、入館者数の増加に努めます。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	順調
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	上段: 23年度実績 下段: 24年度実績	25年度目標	25年度実績 (達成率)	活動の状況 評価理由
	企画展等の開催回数	4 回	4 回	4 回	
	文学の振興、教育、普及とともに本市にゆかりのある文学者と文芸活動をより多くの市民に紹介する手段として、企画展などの開催件数を活動の指標としました。	4 回			100.0 %
				%	

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、 外部要因などの視点	25年度は、24年度夏休み企画展「五味太郎作品展 絵本の時間」のような集客力のある(一般的な知名度の高い)パッケージ展の開催はなかったにもかかわらず、ほぼ24年度なみの入館者を維持し(H24 13,349人→H25 13,211人)、目標を達成することができました。 アンケートでは、企画展の内容について非常に高い評価を得ています。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	企画展は、毎回違う内容で実施するため、経済性・効率性の向上を図りにくいですが、できる限り最少の費用で最大の効果があげられるよう、毎回検討し企画展を行っています。

P D C A チェックシート (平成 25 年度実績評価)

事業概要							担当局	市民文化スポーツ局	
							担当課	市民活動推進課	
							課長名	山田	
事業名	NPO・ボランティア活動促進事業						施策番号		I - 3 - (2) - ②
							事業概要		NPO・ボランティア活動等の市民活動促進や、市民活動団体等と行政の協働促進のため、市民活動や協働等に関する相談受付や情報提供、研修・啓発事業を行うとともに、コミュニティの他施設と連携して、市民活動を担う人づくりを行います。
コスト	事業費	25年度当初予算額	18,055 千円	25年度執行額	15,314 千円	(事業費備考)	目安の金額	課長 0.30 人 係長 0.60 人 職員 1.50 人	
	人件費						人件費	(人件費備考)	

【Action】改善

課題	見直し内容
H23年度の評価結果を受けての課題	計画どおり推移しています。市民活動サポートセンターのコミュニティへの移転に伴い、登録団体の継続利用と新たな利用団体の掘り起しが、課題となります。
	コミュニティ移転を機に、市民活動サポートセンターの機能拡充、他施設との連携促進、認証・認定事務を通して得られた団体ニーズに応じた支援等に取り組みます。

【Plan】計画

【Do】実施 → 【Check】評価

目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	順調
	市民及び市民活動団体等	地域の課題に自ら対応し、市民が自発的、主体的に公益活動に参画する市民社会の形成に向けて、まちづくりの重要な担い手であるNPOやボランティア団体などの活動を促進します。			
代表的な成果指標	指標	(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	25年度実績	25年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	新規設立NPO法人数(累計)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	法人(累計) -	法人(累計) 31	新規設立NPO法人数及び市民活動サポートセンター利用者数は目標を上回る達成状況のため、順調としました。
	市民が主体的に発足させた市民活動団体(NPO法人)数です。 (最終目標と目標年度) 28年度 75法人	法人(累計) 18	法人(累計) 30	103.3 %	
	市民活動サポートセンター利用者数(単年度)	20,428 人	21,000 人	22,935 人	
今後、市民活動に携わりたい方々や、既に活動に取り組んでいる団体等からの相談や施設利用など、市民活動サポートセンターの利用者数です。 (最終目標と目標年度) 28年度 24,000件	21,309 人	109.2 %			

活動計画	活動の状況	順調			
どうやって目的を達成するか	市民活動サポートセンターを拠点に、NPO・ボランティア団体に関する総合的な相談受付、NPO・ボランティア活動情報の提供、専門講座・講演会等の研修・啓発を実施します。				
活動指標	指標	(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	25年度実績	25年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	講座実施数	上段:23年度実績 下段:24年度実績	講座 3	講座 12	市民からの要望があった対象を絞り込んだ講座を追加開催した結果、設定した目標を達成したため、順調としました。
	今後、市民活動に携わりたい方々への啓発や、既に活動に取り組んでいる団体の運営強化、活動の充実を支援する講座を開催します。	講座 6	講座 5	240.0 %	
	広報誌などの発行	12 回	12 回	100.0 %	
市民活動に取り組む団体等に、他団体の活動やイベント、助成金など、活動に役立つ情報を提供するため、広報誌を発行します。	12 回	12 回	100.0 %		

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」 (同成果を低コストで) 「効率性」 (同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	例年実施しているNPO入門セミナーに加えて、法人運営に関する必要な基礎知識の習得のためのNPO法人入門説明会を開催した結果、新たに13団体のNPO法人が設立され、既存法人の組織や活動の強化が図られました。 成果指標、活動指標ともに概ね目標を達成できたので、順調と判断しました。
	市民活動サポートセンターは、公共施設の活用により行政窓口の一部として運営しており、職員に加えてボランティアによる専任の相談員を配置するなど、市民が利用しやすい環境づくりに努めています。	

P D C A チェックシート (平成 25 年度実績評価)

事業概要						担当局	市民文化スポーツ局
						担当課	消費生活センター
事業名 消費者啓発の推進						課長名	愛甲
						施策番号	
事業概要 消費者に対する啓発活動を推進するとともに、消費者が自主性を持って健全な消費生活を営むことができるよう支援します。						事業手法 <input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input checked="" type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()	
コスト	事業費	25年度当初予算額	25年度執行額	(事業費備考)	人件費		目安の金額
		6,045 千円	38,701 千円			8,075 千円	係長 0.30 人 職員 0.60 人

【Action】改善			
課題	H23年度の評価結果を受けての課題	市民向けの啓発講座は概ね予定通り実行していますが、更なる啓発活動の取り組みが求められています。	見直し内容 実施方法・周知方法などを工夫し、より効果的・効率的な啓発活動を行います。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)		成果の状況	順調
	市民	自主的に問題意識を持つことにより、消費者被害を受けない、被害を拡大させない状態にします。			
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	成果の状況 評価理由
	消費生活センターの認知度	92 %	90 %	88 %	悪質商法、詐欺等の手口が悪質化・巧妙化していることなどもあり、消費者トラブルを解決した市民の割合はやや減少しましたが、過去一年間に被害・トラブルを経験した人の割合は、全国では8%ですが、本市においては啓発等に努めた結果、3%台で推移しています。消費生活センターの認知度については、ほぼ目標を達成できました。
	消費者トラブル、多重債務問題及び悪質商法被害等の未然防止と拡大防止のため、消費者啓発施策の推進により、相談窓口である消費生活センターの認知度90パーセント以上を維持します。	90 %		97.8 %	
	(最終目標と目標年度) 90%以上		前年度を上回る程度	57 %	
消費者トラブルを解決した市民の割合	68 %	77.0 %			
実際に消費者トラブルや多重債務問題に遭遇した人の内、解決に至った市民の割合を増やします。	74 %				
(最終目標と目標年度) 前年度を上回る程度					

活動計画	どうやって目的を達成するか	出前講座などの消費者教育の充実を図り、トラブルの実態をいち早く周知することで、被害防止に取り組めます。		活動の状況	順調
			活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	活動の状況 評価理由
	市民への啓発活動の年間実施回数	113 回	81 回	147 回	市民への啓発活動の実施回数が目標を上回りました。
	最新の悪質商法の事例や予防策などについて、講座や様々な媒体を用いて啓発活動に努めます。	78 回		181.5 %	
	消費者トラブル法律無料相談会の実施回数	99 回	102 回	102 回	
消費者に法律相談を利用する機会を定期的に提供します。	102 回	100.0 %			

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 市民への啓発活動は啓発講座の積極的な周知により、実施回数が目標を上回りました。また、消費生活センターの認知度についても、ほぼ目標を達成できました。悪質商法等の手口が悪質化・巧妙化していることなどもあり、消費者トラブルを解決した市民の割合は減少しましたが、過去一年間に被害・トラブルを経験した人の割合は全国では8%ですが、本市においては、啓発等に努めた結果3%台で推移しており、順調としました。今後も、啓発活動の実施内容・方法を工夫し、より効果的・効率的な啓発活動とすることで、成果指標の向上に努める必要があると考えます。
	「経済性」 (同成果を低コストで) 「効率性」 (同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点 啓発事業の実施にあたっては、国の基金を活用しています。その他、啓発講座の講師に消費生活センターの相談員を起用する、関係機関等が実施する高齢者見守り活動を活用して市民へ情報提供するなど、新たな経費がかからないよう工夫しています。また、国・県が作成したチラシ・リーフレットを積極的に活用し、印刷経費の節減に努めています。

P D C A チェックシート (平成 25 年度実績評価)

事業概要							担当局	市民文化スポーツ局
							担当課	安全・安心推進課
							課長名	福本
事業名	地域防犯対策事業						施策番号	
							II - 1 - (3) - ②	
事業概要	本市の犯罪発生件数は、減少傾向にあるとはいえ、体感治安の十分な改善には至っておらず、防犯意識の高揚や自主的な防犯活動への取り組みが強く求められています。このため「生活安全パトロール隊活動促進事業」などにより、市民の防犯意識を高め、地域住民の自主防犯活動を促進し、安全・安心を実感できるまちの実現を図ります。						事業手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()
								コスト 事業費

【Action】改善

課題	H23年度の評価結果を受けての課題	本市の安全・安心まちづくりは、これまで地域団体が中心となり活発に行われてきましたが、活動参加者の固定化や高齢化が進んでいることから、自主防犯活動の維持・継続を図る必要があります。	見直し内容	これまでの地域防犯対策事業に加え、女性や子どもを対象とした犯罪被害防止などの取組により、防犯意識のさらなる向上と自主防犯活動の一層の促進を図り、安全で安心なまちづくりを目指します。
----	-------------------	---	-------	--

【Plan】計画

【Do】実施 → 【Check】評価

目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	順調
	地域住民	「地域の安全は、地域で守る」という地域住民の防犯意識を高め、地域における自主防犯活動の継続を図ります。				
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績 (達成率)	成果の状況 評価理由	
	街頭犯罪件数	6,771 件	件数減 (前年比較)	5,212 件 (233件減)	市民が感じる治安状況は、目標をわずかに下回りましたが、前年より向上しています。街頭犯罪件数は、着実に減少しており、概ね順調に推移しています。	
	北九州市内の街頭犯罪件数です。平成14年の約2万8千件をピークに、毎年減少しています。今後も毎年の件数減を目指します。 (最終目標と目標年度) 件数減(前年比較)平成28年度	5,445 件		100.0 %		
	市民が感じる治安状況(体感治安)	65 %	80 %	77 %		
市民意見調査アンケートで、市民が「とても安全」「比較的安全」と回答する割合の向上を目指します。 (最終目標と目標年度) 対前年度増 平成28年度	76 %	96.3 %				

活動計画	どうやって目的を達成するか	安全・安心を実感できるまちを実現するためには、市民による自主的な防犯活動の取組が重要です。地域の自主防犯組織「生活安全パトロール隊」による防犯パトロールや登下校時の子どもの見守りなどの活動を促進します。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	順調
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績 (達成率)	活動の状況 評価理由
	生活安全パトロール隊による年間パトロール平均参加人数	1,576 人	1,000 人	1,436 人	生活安全パトロール隊による活動は参加人数、実施回数ともに、目標を達成しています。
	各校区の生活安全パトロール隊による、自主防犯活動参加者の1年間の合計値を全校区(131校区)で割った、1校区当たりの平均参加人数です。	1,706 人		143.6 %	
	生活安全パトロール隊による自主防犯活動の実施回数	194 回	100 回	217 回	
各校区の生活安全パトロール隊による、自主防犯活動実施回数の1年間の合計値を全校区(131校区)で割った、1校区当たりの平均実施回数です。	211 回	217.0 %			

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	街頭犯罪の件数は前年より233件減少し、市民が感じる治安状況も前年より向上しています。また、生活安全パトロール隊の活動も、1校区につき年間約217回、1,436人の参加があり、地域における自主防犯活動の継続が図られているため、順調としました。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	生活安全パトロール隊の活動はすべてボランティアによるもので、この事業では活動に対する人的支援(指導員による助言等)と物的支援(腕章、帽子などの支給)を実施しています。また、支援物品については、毎年、品目や購入数量を見直すなどしており、経済的かつ効率的な支援を心がけています。

P D C A チェックシート (平成 25 年度実績評価)

事業概要							担当局	市民文化スポーツ局
							担当課	安全・安心都市整備課
事業名 防犯灯設置事業							課長名	松本
							施策番号	
事業概要 夜間における犯罪の発生を未然に防止し、公衆の通行の安全を図るため地域と市が協力しながら、防犯灯を設置します。防犯灯の設置にあたっては、LED防犯灯の設置促進を図り、町内会等の地域の防犯灯の設置のため費用の一部を助成し、明るく安心して生活できるまちづくりを推進します。							事業手法	
							<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()	
コスト	事業費	25年度当初予算額	25年度執行額	(事業費備考)	人件費	目安の金額	課長 0.20 人	
		157,332 千円	150,887 千円			10,800 千円	係長 0.40 人 職員 0.60 人	

【Action】改善

課題	H23年度の評価結果を受けての課題	防犯灯について、現灯数が維持され、LED化については計画以上に進捗が図られています。また、犯罪発生件数も減少するなど、成果の状況、活動状況、いずれも順調に進んでいます。	見直し内容	LED化が進むことで維持管理経費(電気代、球替え等)が大幅に減少することから、経済性・効率性の向上に寄与する事業です。引き続き、防犯灯のLED化を促進します。
-----------	-------------------	--	--------------	---

【Plan】計画

【Do】実施 → 【Check】評価

目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	順調
	市民	夜間における犯罪の発生を未然に防止し、公衆の通行の安全を図るため地域と市が協力しながら、防犯灯を設置します。地域が設置する防犯灯の費用の一部を補助することで防犯灯の設置促進を図り、市民が安全で安心して暮らすことのできる明るいまちづくりを目指します。	25年度実績	77 %	
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	上段: 23年度実績 下段: 24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	刑法犯認知件数	1,252件減	件数減 (前年比較)	37件減 (12,372件)	刑法犯認知件数は前年度に比べ減少し、市民が感じる治安状況(体感治安)は前年度より向上しているため「順調」としました。
	北九州市内の刑法犯認知件数です。平成14年の4万件をピークに、毎年減少しています。今後も毎年の件数減を目指します。 (最終目標と目標年度) 件数減(前年比較)平成28年度	1,634件減 (12,409件)		%	
	市民が感じる治安状況(体感治安)	65 %	80 %	77 %	
	市民意識調査アンケートで、市民が「とても安全」「比較的安全」と回答する割合の向上を目指します。 (最終目標と目標年度) 対前年度増 平成28年度	76 %		96.3 %	

活動計画	どうやって目的を達成するか	地域が設置する防犯灯については、町内会等の属する連合会及びまちづくり協議会、未加入団体に対し、設置費の一部を補助し、現灯数を維持します。平成23年度からは、10年間を目標にLED照明への転換を図ります。LED化により維持管理経費が減少するため、町内会等の負担が軽減されます。また、蛍光灯と比べて球切れがないので、夜間の安全性が向上します。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	順調
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	上段: 23年度実績 下段: 24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	本市設置及び地域設置防犯灯の管理灯数	68,041 灯	現状維持	67,752 灯	防犯灯の現灯数が維持され、LED化も計画どおり進んでいるため「順調」としました。
	本市が設置している防犯灯数(約14,600灯)については、効率な配置のもと現灯数を維持し、また、地域が設置している防犯灯数(約53,400灯)については、補助制度を継続し現灯数を維持します。	67,942 灯		%	
	防犯灯のLED化灯数	6,931 灯	6,800 灯	9,764 灯	
	毎年度、全灯数の約1割をLED化します。	8,881 灯		143.6 %	

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	防犯灯について、現灯数が維持され、LED化も計画どおり進んでいます。また、刑法犯認知件数は前年より37件減少し、体感治安も向上するなど、成果の状況、活動の状況いずれも順調です。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点	LED照明に転換した場合、維持管理経費(電気代)が大幅に減少します。維持管理補助金についてもLED防犯灯の場合1灯あたり1,100円(蛍光灯1,800円)としていることから、電気代の減少により、地域、市の負担軽減につながり、経済性・効率性の向上に寄与しています。

P D C A チェックシート (平成 25 年度実績評価)

事業概要					担当局	市民文化スポーツ局	
					担当課	安全・安心都市整備課	
事業名 防犯カメラ運用事業					課長名	松本	
					施策番号		
事業概要 暴力団犯罪をはじめ街頭犯罪を抑止し、市民生活等の安全・安心を確保するため、人が多く集まる繁華街や幹線道路に既に設置している防犯カメラの適正な設置、運用を行います。					事業手法 <input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()		
コスト	事業費	25年度当初予算額	25年度執行額	(事業費備考)		人件費	目安の金額
		39,000 千円	39,373 千円			5,400 千円	(人件費備考)

【Action】改善

課題	H23年度の評価結果を受けての課題	犯罪の抑止と市民の安心感の醸成、ひいては本市の安全・安心なまちづくりを進めるため、平成24年度に設置した158台の防犯カメラの適正な運用とともに、凶悪事件等の発生などにより市民や事業者等からのニーズがある場合、県警察と協議の上、必要な箇所に新たな防犯カメラの設置を検討します。	見直し内容	本市の安全・安心のさらなる取り組みの1つとして、警察等での設置だけでは不十分な地域や、市民や事業者等からのニーズがある地域で市が必要と判断する箇所に、県警察と協議の上、防犯カメラを設置します。

【Plan】計画

【Do】実施 → 【Check】評価

目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	順調
	市民	市内主要幹線道路および繁華街など人の集まる場所に防犯カメラを設置することにより、犯罪の起きにくい安全・安心なまちづくりを推進するとともに、重大犯罪等の抑止を図ります。				
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	成果の状況評価理由	
	繁華街における犯罪発生件数	—	件数減 (前年比較)	小倉中央小学校区 …31件増(3%増) 黒崎中央小学校区 …43件減(12%減) 計…12件減(1%減)	繁華街における犯罪発生件数は、小倉中央小学校区では微増しているものの、黒崎中央小学校区を合わせた件数では前年度に比べ減少し、また、市民が感じる治安状況(体感治安)も向上しているため、「順調」としました。	
	小倉北区繁華街のある小倉中央小学校区、八幡西区繁華街のある黒崎中央小学校区の犯罪発生件数の減を目指します。	—		%		
	(最終目標と目標年度) 件数減(前年比較)平成25年度		80 %	77 %		
市民が感じる治安状況(体感治安)	65 %					
市民意識調査アンケートで、市民が「とても安全」「比較的安全」と回答する割合の向上を目指します。	76 %		96.3 %			
(最終目標と目標年度)	対前年度増 平成28年度					

活動計画	どうやって目的を達成するか	市内主要幹線道路および小倉北区堺町・鍛冶町・紺屋町地区等、八幡西区黒崎・熊手地区の繁華街に防犯カメラを設置します。		活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	順調
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	活動の状況評価理由	
	防犯カメラの運用	—	158 台	158 台	防犯カメラを計画どおり設置し運用開始したため「順調」としました。	
	主要幹線道路78台、繁華街80台の防犯カメラを運用します。	158 台		100.0 %		
				%		

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	街頭犯罪等を抑止し、市民生活等の安全・安心を確保するため、防犯カメラを目標期日(平成25年3月末)までに計画どおり設置することができました(主要幹線道路:78台、小倉北区繁華街:52台、八幡西区繁華街:28台)。また、繁華街地区の犯罪発生件数は減少し、市民の体感治安も向上するなど、成果の状況、活動の状況いずれも順調です。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	経済的・効率的に防犯カメラを設置するため、福岡県の防犯カメラ設置事業補助金を活用するとともに、警察や地元住民等との綿密に協議を行い、最適な配置及び設置数を決定し、カメラを設置しました。

P D C A チェックシート (平成 25 年度実績評価)

事業概要					担当局	市民文化スポーツ局
					担当課	安全・安心相談センター
事業名 暴力追放の推進					課長名	岩永
					施策番号	
事業概要 社会全体で暴力団を排除する取り組みを推進するため、事業者・市民の暴排意識の高揚と暴力団排除の重要性についての認識を高める「研修開催等の啓発事業」、「市民暴排の日記念行事開催」、「暴力追放強調月間による集中的な広報啓発」などを実施し、官民一体となって取り組みます。					事業手法 <input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()	
コスト	事業費	25年度当初予算額	25年度執行額	(事業費備考)		目安の金額
		19,473 千円	15,403 千円		係長 0.30 人	
					人件費	職員 0.70 人
						(人件費備考)
						12,850 千円

【Action】改善

課題	H23年度の評価結果を受けての課題	平成24年度の小倉・黒崎地区繁華街における放火が疑われる不審火、飲食店頭の従業員を狙った殺人未遂事件等の被害が相次いでおり、また、平成24年度の市政要望でも「防犯、暴力追放の推進」が第1位となっています。今後も、警察と連携しながら、効果的な暴追運動を展開し、事業者や市民の暴力追放意識の高揚及び暴排気運の情勢を図る必要があります。	見直し内容	暴追大会や研修会・出前講演等の開催、暴力追放啓発強調月間の実施により、暴力追放啓発活動を推進し、暴力追放意識の高揚を図ります。事業規模は現状を維持して実施しますが、事業の統廃合などにより効率的な事業実施を図ります。
----	-------------------	---	-------	---

【Plan】計画

【Do】実施 → 【Check】評価

目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	順調
	北九州市	事業者や市民が警察・行政とともに一丸となって高い暴排気運の下、暴力追放に取り組める環境を目指します。				
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	成果の状況 評価理由	
	暴追対策に対する市民の評価	45 %	対前年度増	48 %	暴力団による犯行と思料される事件が発生したため、暴追対策に対する市民の評価が前年を若干下回ったものの、企業における暴力団排除条項の規定割合が増加していることから順調としました。	
	市民意識調査項目の「北九州市の暴力追放対策が、以前と比べ進んでいると思いますか。」の質問に「進んでいる」「少し進んでいる」と回答する市民の割合を高めます。	52 %		%		
	(最終目標と目標年度)安全・安心を実感できるまちの実現、社会経済活動の健全な発展が暴力団を意識せずに感じられる状態	53.8 %	対前回実施増	55.8 %		
企業における暴力団排除条項の規定割合	—	%				
企業対象アンケート項目の「取引相手との法律関係を規定する契約書等のなかで、暴力団排除条項を規定していますか。」の質問に「規定している」「今後規定する予定」と回答する企業の割合を高めます。 (最終目標と目標年度)安全・安心を実感できるまちの実現、社会経済活動の健全な発展が暴力団を意識せずに感じられる状態						

活動計画	どうやって目的を達成するか	暴力追放意識の高揚を図るため、暴追大会や研修会等を開催し、啓発活動の推進を図ります。また、8月を暴力追放啓発強調月間と位置付け、暴力追放広報啓発を集中して実施します。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	順調
	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:23年度実績 下段:24年度実績			
活動指標	暴追大会や研修会等の実施開催	25 回	12 回	28 回	研修会や出前講演等を目標より多く開催できたので順調としました。 今後も引き続き、暴力追放活動を推進していきます。
	暴追大会、研修会・出前講演等の開催により、暴力追放啓発活動を推進し、暴力追放意識の高揚を図ります。	35 回		233.3 %	
	北九州市民暴力追放総決起大会の参加者数	2,000 人	2,000 人	2,000 人	
	市民の暴力追放意識の高揚を目的として、「市民暴排の日」に北九州市民暴力追放総決起大会を開催します。また、各区においても暴力追放大会を開催します。	2,000 人		100 %	

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	暴力追放意識の高揚と暴排気運の情勢を図ることを目的に、全市的な規模の暴追大会を2回、出前講演等研修会を26回の計28回開催し、目標を達成しました。また、企業における暴力団排除条項の規定割合が増加していることから順調としました。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	県及び市暴力団排除条例を基に、市民・事業者・県警察と一丸となって、暴排活動を推進しています。その結果、暴排気運の高揚により各業界団体からの出前講演依頼や暴追大会参加者数の継続的な維持につながっています。また、大会運営や啓発活動など一部民間活力を導入し、経済性・効率性の向上を図りました。

P D C A チェックシート (平成 25 年度実績評価)

事業概要							担当局	市民文化スポーツ局	
							担当課	安全・安心相談センター	
							課長名	岩永	
事業名	民事介入暴力相談事業						施策番号		II - 1 - (3) - ③
							事業概要	市民生活への暴力団等の介入を排除し、安全・安心なまちづくりを図るため、民事介入暴力相談を実施します。	
コスト	事業費	25年度当初予算額	25年度執行額	(事業費備考)	人件費	目安の金額			
	26,834 千円	25,404 千円	2,900 千円	係長 0.10 人 職員 0.10 人					

【Action】改善

課題	H23年度の評価結果を受けての課題	見直し内容	平成24年度の小倉・黒崎地区繁華街における放火が疑われる不審火、飲食店頭の従業員を狙った殺人未遂事件等の被害が相次いでおり、また、平成24年度の市政要望でも「防犯、暴力追放の推進」が第1位となっています。今後も、警察と連携しながら、効果的な暴追運動を展開し、事業者や市民の暴力追放意識の高揚及び暴排気運の情勢を図る必要があります。	常駐の専門の相談員による民事介入暴力相談を実施し、警察や弁護士と連携し、問題の解決及び小倉都心部にある繁華街の再生を図ります。事業規模は現状を維持して実施しますが、事業の統廃合などにより予算は縮小しつつ効率的な事業実施を図ります。
----	-------------------	-------	---	---

【Plan】計画

【Do】実施 → 【Check】評価

目的	対象(誰を、何を)	北九州市	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	市民生活への暴力団等の介入を排除し、安全・安心を実感できるまちの実現を図ります。			成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	順調
代表的な成果指標	指標	(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	25年度目標	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度実績(達成率)	成果の状況評価理由			
	暴追対策に対する市民の評価	45 %	対前年度増	48 %	暴力団による犯行と思料される事件が発生したため、暴追対策に対する市民の評価が前年を若干下回ったものの、企業における暴力団排除条項の規定割合が増加していることから順調としました。				
	市民意識調査項目の「北九州市の暴力追放対策が、以前と比べ進んでいると思いますか。」の質問に「進んでいる」「少し進んでいる」と回答する市民の割合を高めます。	52 %							
	(最終目標と目標年度)安全・安心を実感できるまちの実現、社会経済活動の健全な発展が暴力団を意識せずに感じられる状態	53.8 %	対前回実施増	55.8 %					
企業における暴力団排除条項の規定割合	—								

活動計画	どうやって目的を達成するか	常駐の専門の相談員による民事介入暴力相談を実施し、警察や弁護士と連携し、問題の解決を図ります。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	順調	
活動指標	指標	(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	25年度目標	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	民事介入暴力相談の実施	230 件	適切な相談の実施	200 件	%	民事介入暴力相談を専門の相談員が受け、適切な相談を実施できたので順調としました。今後も相談活動を続けていく必要があります。
	専門の相談員により、適切な相談を実施し、問題の解決を図ります。	207 件				

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	3名の常駐の専門の相談員が民事介入暴力相談を受け、警察や弁護士と連携し、問題の解決を図りました。また、企業における暴力団排除条項の規定割合が増加していることから順調としました。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	他の法律相談窓口の充実や相談件数を考慮し、弁護士相談を月2回から1回にしました。また、民事介入暴力の相談員には警察のBを活用するなど、経済性・効率性の向上は図りました。

P D C A チェックシート (平成 25 年度実績評価)

事業概要							担当局	市民文化スポーツ局
							担当課	安全・安心都市整備課
							課長名	松本
							施策番号	
事業名	交通安全推進事業						事業手法 <input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()	
事業概要	第8次交通安全計画に基づき、重点項目について啓発を実施します。生涯にわたる交通安全教育及び効果的な広報啓発活動により、市民に広く交通安全思想を普及し、交通事故防止を図ります。							
コスト	事業費	25年度当初予算額	25年度執行額	(事業費備考)	人件費	目安の金額		課長 0.20 人 係長 0.30 人 職員 0.60 人
		6,193 千円	6,256 千円			9,800 千円		(人件費備考)

【Action】改善

課題	H23年度の評価結果を受けての課題	交通事故発生件数、交通事故死者数とも前年比較で減少しており、目標は達成したものの、高齢者の死亡事故割合が増加傾向にあることや交通事故発生件数がまだ高い水準にあり、更なる取組が必要です。	見直し内容	これまで以上に関係機関、団体との連携を強化し交通安全運動に取り組みます。
----	-------------------	--	-------	--------------------------------------

【Plan】計画

【Do】実施 → 【Check】評価

目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	順調
	市民	交通事故死者数を減少させることはもちろん、交通事故件数自体の減少に取り組むことによって、市民に交通ルール・マナーの徹底を図り、安全で安心なまちを目指します。			
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	上段: 23年度実績 下段: 24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	成果の状況 評価理由
	交通事故発生件数(警察統計のため暦年でカウント)	9,137 件	件数減(前年比較)	8,949 件	交通事故発生件数は、前年に比べ2件減少し、特に交通事故死亡者は、過去最少(前年比1名減)となっているため、「順調」としました。
	第8次北九州市交通安全計画(平成23年度～平成27年度)に基づき、各団体・関係機関が連携して交通安全対策に取り組むことにより、交通事故の発生件数の減少を目指します。 (最終目標と目標年度) 8,000件以下 平成27年	8,951 件		%	
	交通事故死者数(警察統計のため暦年でカウント)	28 人	件数減(前年比較)	22 人	
第8次北九州市交通安全計画(平成23年度～平成27年度)に基づき、各団体・関係機関が連携して交通安全対策に取り組むことにより、交通事故死者数の減少を目指します。 (最終目標と目標年度) 22人以下 平成27年	23 人	%			

活動計画	どうやって目的を達成するか	平成23年度中に策定した第8次北九州市交通安全計画に基づいて、その重点項目である「自転車の安全確保」「高齢者の安全確保」「飲酒運転の撲滅」に取り組めます。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	順調
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	上段: 23年度実績 下段: 24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	活動の状況 評価理由
	高齢者に対する交通安全教室参加者数	30,620 人	31,000 人	28,697 人	高齢者については、目標に僅かに届かなかったものの小学校等での交通安全教室は大幅に目標を上回っています。また、交通安全教室の開催数(1,106回 → 1,253回)も例年以上の実績が上がっていることから、活動状況を「順調」としました。
	高齢者の交通事故を防止するため、老人クラブ等と連携し、高齢者が参加するイベント等で巡回交通安全教室を実施します。	30,720 人		92.6 %	
	小学校等での交通安全教室参加者数	28,872 人	27,000 人	40,761 人	
学校や地域と連携し、歩行者としての知識や自転車のルールなどを習得するための交通安全教室を実施します。	38,306 人	151.0 %			

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	交通安全教室の参加者は着実に増えており、また、交通事故発生件数は、過去最悪であった平成15年以降、若干の上下をしなから傾向的には減少傾向にあり、死者数は、平成16年以降、毎年減少していることから、成果の状況、活動の状況ともに「順調」としています。 交通事故は一朝一夕ではなくなるから、これまでと同様に、市、警察や関係団体、地域が一体となって、交通安全運動に取り組んでいく必要があると考えています。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	ポスターやチラシなどは県が作成したものを購入することで、経費の軽減を図っています。また、啓発物品については各区分を市で一括購入することで単価を引き下げています。引き続き、経済性・効率性の検討を進めていきます。

P D C A チェックシート (平成 25 年度実績評価)

事業概要					担当局	市民文化スポーツ局	
					担当課	安全・安心都市整備課	
事業名 交通安全センター管理運営					課長名	松本	
					施策番号		
事業概要 市立交通安全センターを管理するとともに、交通公園内外における交通ルール・マナーの徹底を図り、自転車の安全運転を促進します。 指定管理期間 平成26年度～平成30年度 指定管理者 タウンモービルネットワーク					事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input checked="" type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他	
コスト	事業費	25年度当初予算額	25年度執行額	(事業費備考)		目安の金額	課長 0.10 人
		27,351 千円	27,350 千円		3,650 千円	係長 0.10 人 職員 0.20 人	

【Action】改善

課題	H23年度の評価結果を受けての課題	交通事故の発生件数、事故死者数とも前年比較で減少しているものの、全国的にも自転車のルールの遵守、マナーの向上が問題となっているため更なる取組が必要となっています。	見直し内容	交通安全教室などの内容を充実させることで、交通安全思想の普及を図ります。また、全国的に自転車の安全利用が課題となっている中、平成25年度に導入した「自転車シミュレーター」を活用するなど、交通公園における交通安全教育の推進に取り組みます。
-----------	-------------------	---	--------------	--

【Plan】計画

【Do】実施 → 【Check】評価

目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	順調
	市民	交通事故発生件数を減少させることはもちろん、自転車が関連する交通事故の発生件数の減少に取り組むことにより、市民に自転車のルール・マナーの徹底を図り、安全で安心なまちを目指します。				
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	上段: 23年度実績 下段: 24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	成果の状況評価理由	
	交通事故の発生件数(警察統計のため暦年でカウント)	9,137 件	件数減(前年比較)	8,949 件		
	第8次北九州市交通安全計画(平成23年度～平成27年度)に基づき、各団体・関係機関が連携して交通安全対策に取り組むことにより、交通事故の発生件数の減少を目指します。 (最終目標と目標年度) 8,000件以下 平成27年	8,951 件		%		
	自転車関連事故の発生件数(警察統計のため暦年でカウント)	1,167 件	件数減(前年比較)	1,069 件		
第8次北九州市交通安全計画(平成23年度～平成27年度)に基づき、各団体・関係機関が連携して交通安全対策に取り組むことにより、自転車が関連する事故の発生件数の減少を目指します。 (最終目標と目標年度) 件数減(前年比較) 平成28年	1,136 件	%				

活動計画	どうやって目的を達成するか	学校へ積極的に働きかけを行い、交通安全教室の開催数の増加に取り組んでいきます。また、子どもたちが「自転車運転免許証」を持ちたいという気持ちになるように制度の充実を図っていきます。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	大変順調
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	上段: 23年度実績 下段: 24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	交通公園入場者数	184,682 人	187,715 人	208,142 人	
	交通公園の入場者を増加させることで、自転車をはじめとした交通ルールの周知、遵守やマナーの改善を図ります。	198,395 人		110.9 %	
	安全教室の開催数	546 回	508 回	601 回	
警察等と連携して、交通公園や小学校等での交通安全教室を開催します。	628 回	118.3 %			

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	交通公園の入場者数、安全教室の開催数ともに、目標を大きく上回っており、交通安全思想の普及が図られていると考えられるため、活動の状況を「大変順調」としました。また、交通事故発生件数は前年度と比べ減少し、自転車関連事故も前年度と比べ減少しているため、成果の状況は「順調」としました。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	平成18年度より指定管理者制度を導入し、経費の削減を図りました。全国的に自転車の安全利用が課題となっている中、「交通公園」を設置している自治体は少ないことから、有効な取組と判断しています。

P D C A チェックシート (平成 25 年度実績評価)

事業概要				担当局	市民文化スポーツ局		
				担当課	安全・安心推進課		
事業名 地域防犯対策事業				課長名	福本		
				施策番号		II - 1 - (3) - ⑤	
事業概要 本市の犯罪発生件数は、減少傾向にあるとはいえ、体感治安の十分な改善には至っておらず、防犯意識の高揚や自主的な防犯活動への取り組みが強く求められています。このため「生活安全パトロール隊活動促進事業」などにより、市民の防犯意識を高め、地域住民の自主防犯活動を促進し、安全・安心を実感できるまちの実現を図ります。				事業手法 <input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()			
コスト	事業費	25年度当初予算額	25年度執行額	(事業費備考)	人件費	目安の金額	課長 0.20 人
		63,367 千円	59,952 千円			17,550 千円	係長 0.40 人 職員 1.50 人

【Action】改善

課題	H23年度の評価結果を受けての課題	本市の安全・安心まちづくりは、これまで地域団体が中心となり活発に行われてきましたが、活動参加者の固定化や高齢化が進んでいることから、自主防犯活動の維持・継続を図る必要があります。	見直し内容	これまでの地域防犯対策事業に加え、女性や子どもを対象とした犯罪被害防止などの取組により、防犯意識のさらなる向上と自主防犯活動の一層の促進を図り、安全で安心なまちづくりを目指します。
-----------	-------------------	---	--------------	--

【Plan】計画

【Do】実施 → 【Check】評価

目的	対象(誰を、何を)	地域住民	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	「地域の安全は、地域で守る」という地域住民の防犯意識を高め、地域における自主防犯活動の継続を図ります。	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	順調
	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)		成果の状況評価理由	
代表的な成果指標	街頭犯罪件数	6,771 件	件数減(前年比較)	5,212 件 (233件減)	市民が感じる治安状況は、目標をわずかに下回りましたが、前年より向上しています。街頭犯罪件数は、着実に減少しており、概ね順調に推移しています。		
	北九州市内の街頭犯罪件数です。平成14年の約2万8千件をピークに、毎年減少しています。今後も毎年の件数減を目指します。	5,445 件		100.0 %			
	(最終目標と目標年度) 件数減(前年比較)平成28年度		80 %	77 %			
	市民が感じる治安状況(体感治安)	65 %		96.3 %			
市民意見調査アンケートで、市民が「とても安全」「比較的安全」と回答する割合の向上を目指します。	76 %	(最終目標と目標年度) 対前年度増 平成28年度					

活動計画	どうやって目的を達成するか	安全・安心を実感できるまちを実現するためには、市民による自主的な防犯活動の取組が重要です。地域の自主防犯組織「生活安全パトロール隊」による防犯パトロールや登下校時の子どもの見守りなどの活動を促進します。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	順調
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	生活安全パトロール隊による年間パトロール平均参加人数	1,576 人	1,000 人	1,436 人	生活安全パトロール隊による活動は参加人数、実施回数ともに、目標を達成しています。
	各校区の生活安全パトロール隊による、自主防犯活動参加者の1年間の合計値を全校区(131校区)で割った、1校区当たりの平均参加人数です。	1,706 人		143.6 %	
	生活安全パトロール隊による自主防犯活動の実施回数	194 回	100 回	217 回	
各校区の生活安全パトロール隊による、自主防犯活動実施回数の1年間の合計値を全校区(131校区)で割った、1校区当たりの平均実施回数です。	211 回	217.0 %			

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	街頭犯罪の件数は前年より233件減少し、市民が感じる治安状況も前年より向上しています。また、生活安全パトロール隊の活動も、1校区につき年間約217回、1,436人の参加があり、地域における自主防犯活動の継続が図られているため、順調としました。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	生活安全パトロール隊の活動はすべてボランティアによるもので、この事業では活動に対する人的支援(指導員による助言等)と物的支援(腕章、帽子などの支給)を実施しています。また、支援物品については、毎年、品目や購入数量を見直すなどしており、経済的かつ効率的な支援を心がけています。

P D C A チェックシート (平成 25 年度実績評価)

事業概要				担当局	市民文化スポーツ局			
				担当課	地域振興課			
事業名 戦時資料展示コーナー管理運営事業				課長名	杉本			
				施策番号		II - 3 - (4) - ①		
事業概要	本事業は、市民からご寄贈いただいた戦時下の資料を保管・展示することにより、北九州市立埋蔵文化財センター内に開設した戦時資料展示コーナーにおいて、戦争がもたらした惨禍と平和の尊さを多くの市民に理解していただくものです。				事業手法 <input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()			
コスト	事業費	25年度当初予算額 1,650 千円	25年度執行額 1,438 千円	(事業費備考)	人件費	目安の金額 1,220 千円	課長 0.03 人 係長 0.05 人 職員 0.05 人	(人件費備考)

【Action】改善

課題	H23年度の評価結果を受けての課題	市内小学校をはじめとして、区役所や生涯学習センターへ案内チラシの配布を行うことにより、概ね目標は達成していますが、さらに広く周知し、多くの方に来館していただくことが課題です。	見直し内容	チラシの配布について、新たに中学生を対象にPRを行います。
-----------	-------------------	---	--------------	-------------------------------

【Plan】計画

【Do】実施 → 【Check】評価

目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	順調
	多くの市民	市民からご寄贈いただいた戦時下の資料を保管・展示することにより、風化しつつある戦争がもたらした惨禍と平和の尊さを理解していただき、二度と同じ過ちを繰り返さないよう次の世代に伝えていくことができる状態を目指します。				
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)		上段: 23年度実績 下段: 24年度実績	25年度目標	25年度実績 (達成率)	成果の状況 評価理由
	戦時資料展示コーナー見学者数		4,208 人	4,000 人	3,602 人	
平成25年度までの最終目標に設定していた4,000人は安定的に達成していないため、引き続き平成28年度までの最終目標と設定しました。		3,912 人			90.1 %	平成25年度は、目標とする見学者数を下回りましたが、広報活動の強化等により、子どもの入場者数は増加したため、順調としました。
(最終目標と目標年度) 4,000人 H28年度				%		
(最終目標と目標年度)						

活動計画	どうやって目的を達成するか	引き続き、夏休みの機会を利用して、戦争の悲惨さや平和の尊さを学んでもらえるよう、市内の全小学6年生児童に案内チラシを配布するとともに、市立中学校や観光案内所等に新たにチラシ配布の協力を依頼する等、広報に努めます。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	順調	
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)					上段: 23年度実績 下段: 24年度実績
	市民への広報活動件数		281 箇所・校	340 箇所・校	348 箇所・校	
見学者の増加に向けて、小中学校や区役所、市民センターに案内チラシを配布するなど、様々な機会を捉えて広報活動を実施します。		284 箇所・校		102.4 %	目標とした広報活動件数を達成することができたので、順調としました。	
				%		

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	小学校へのチラシ配布など、広報活動の強化に取り組んでから、子どもの入場者数は大幅に増加していますが、ここ2か年は、民間企業が行ったウォーキングコースに戦時資料展示コーナーが組み込まれなかったため、入場者数全体は減少しています。今後は、民間企業に対するウォーキングコース設定の働きかけやチラシ配布先の拡充等、様々な機会を捉えて、入場者増加に取り組んでいきます。
	「経済性」 (同成果を低コストで) 「効率性」 (同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点	戦時資料展示コーナーが開設されている埋蔵文化財センターの管理運営は、松本清張記念館や文学館など他の施設と一括して委託しているため、コスト削減の余地は少ないと考えます。

P D C A チェックシート (平成 25 年度実績評価)

事業概要							担当局	市民文化スポーツ局
							担当課	安全・安心都市整備
							課長名	松本
事業名	モラル・マナーアップ関連条例推進事業						施策番号	
							Ⅲ - 1 - (1) - ④	
事業概要	4つの迷惑行為をなくすために人が多く集まる中心市街地や観光拠点である小倉・黒崎地区を迷惑行為防止重点地区に指定し、過料の適用を実施しています。また、条例周知のための広報や路面表示等の環境整備等を実施しています。						事業手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
								(人件費備考)
コスト	事業費	25年度当初予算額	25年度執行額	(事業費備考)	目安の金額	課長	0.10人	
		42,483 千円	37,490 千円		6,150 千円	係長	0.20人	
						職員	0.40人	

【Action】改善			
課題	H23年度の評価結果を受けての課題	見直し内容	平成23年度の評価結果を受け、重点地区内の巡視方法を見直しを検討するとともに、迷惑行為防止のための教育活動や地域活動が更に広がるよう取組を強化してまいります。
	小倉都心地区、黒崎副都心地区ともに、過料適用件数(1日平均)が減少しており、今後もこの状態を継続していく必要があります。		

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック 順調
	市民	迷惑行為の発生を防止するため、重点地区において4つの迷惑行為を行った者に対して、過料の適用を行い、モラル・マナーの向上を図ります。			
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	成果の状況 評価理由 小倉都心地区の過料適用件数は、最終目標年次を前に目標を達成しましたが、黒崎副都心地区では若干ではあります。増加しています。しかしながら、路上喫煙率(歩行者に占める喫煙者の割合)は、過料適用前と比較すると大きく減少していることから、「順調」としています。
	モラル・マナーアップ関連条例に基づく過料適用件数の削減(小倉都心地区、黒崎副都心地区) 条例に基づく過料適用と周知のための広報が進むことによって、条例違反者の減少が予測されるため、過料適用開始時から小倉30%、黒崎20%削減を目標として取り組むこととしました。 (最終目標と目標年度)平成26年度 小倉都心地区30%、黒崎副都心地区20%削減	小倉30.8% 黒崎10.5% 削減	単年度目標設定はありません	小倉41.0% 削減 黒崎10.5% 増	
	路上喫煙率(歩行者に占める喫煙者の割合) 条例に基づく過料適用と周知のための広報が進むことによって、条例違反者の減少が予測されるため、歩行者に占める喫煙者の割合を減少することを目標として取り組むこととしました。 過料適用前 小倉0.99/100人(平成20年度) 黒崎1.21/100人(平成21年度) (最終目標と目標年度) 前年比減(平成25年度)	小倉48.7% 黒崎57.9% 削減	前年比減	小倉 0.17/100人 (0.05/100人 減) 黒崎 0.26/100人 (0.11/100人 減)	
		小倉 0.22/100人 黒崎 0.37/100人		%	

活動計画	どうやって目的を達成するか 重点地区(小倉、黒崎地区)において巡視活動を実施するとともに、路面標示等の環境整備の充実や市政だより等の広報媒体の活用により、条例や重点地区についての広報、啓発を行います。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック 大変順調
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標
	迷惑行為防止重点地区での巡視・啓発活動回数	月18 回	月平均 15回以上
	重点地区での迷惑行為を防止するために、巡視員による定期的な巡視、啓発活動に取り組みます。	月16 回	75 回
	迷惑行為防止重点地区の取組に関する広域的な広報・啓発活動回数	55 回	208.3 %
	迷惑行為を防止するために、街頭での広報活動や市政広報物、新聞、テレビ、ラジオ、HPなどを通じた広報活動に取り組みます。	60 回	

【Check】評価(分析)	
【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	重点地区内での巡視、広報、環境整備に取り組んだ結果、路上喫煙率は減少し、重点地区、特に小倉都心地区内における過料適用件数は大幅に減少するなど、市民のモラル・マナーが向上したと考えられるため、活動指標を「大変順調」、成果指標を「順調」としました。今後とも、小倉、黒崎の重点地区における巡視活動を継続して実施するとともに、様々な媒体を用いた広報活動を展開します。
「経済性」 (同成果を低コストで) 「効率性」 (同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点	重点地区での巡視や過料の徴収では、違反者とのトラブルも発生しており、民間での対応はきわめて困難であると考えています。このため、巡視員には法的知識を有し、トラブルへの対応力も高い警察OBを起用しており、今後も、最少人数でより効果的な取組となるよう、工夫を重ねていきます。

P D C A チェックシート (平成 25 年度実績評価)

事業概要				担当局	市民文化スポーツ局			
				担当課	文化振興課			
				課長名	瀬戸口			
				施策番号		III - 2 - (1) - ②		
事業名	文化財保存補助				事業手法 <input type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()			
事業概要	伝統文化の継承者や保存団体の活動を育成・支援し、市内の伝統文化を発掘し、次世代に継承します。							
コスト	事業費	25年度当初予算額 1,212 千円	25年度執行額 1,162 千円	(事業費備考)	人件費	目安の金額 11,050 千円	課長 0.20 人 係長 0.50 人 職員 0.50 人	(人件費備考)

【Action】改善

課題	H23年度の評価結果を受けての課題	指定無形民俗文化財の保存団体の自主的な申請に対して補助を行うもので、急激に申請件数が増加するものではありませんが、引き続き、保存団体に対して周知を行っていきます。	見直し内容	引き続き、保存団体に対して周知を行うとともに、限られた財源の中で、時機に応じて適切に協議をしながら事業を進めていきます。
----	-------------------	---	-------	--

【Plan】計画

【Do】実施 → 【Check】評価

目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	順調
	伝統文化の継承者や保存団体の活動	伝統文化の継承者や保存団体の活動を育成・支援し、市内の伝統文化を発掘し、次世代に継承します。			
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	上段: 23年度実績 下段: 24年度実績	25年度目標	25年度実績 (達成率)	成果の状況 評価理由
	指定無形民俗文化財保存支援団体数	16 団体	17 団体	16 団体	目標には達しませんでした。保存団体への周知と適切な協議を行い、事業を進めることができました。
指定無形民俗文化財の保存団体が行う保存・継承活動を支援します。	16 団体	94.1 %			
	(最終目標と目標年度) 26年度: 17団体			%	
	(最終目標と目標年度)			%	

活動計画	どうやって目的を達成するか	無形民俗文化財は、地域住民の熱意と努力により大切に守られてきたものであり、市の大切な「たから」として保存・継承していきます。市の支援は有効な手段であり、引き続き補助を継続していきます。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	順調
	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	上段: 23年度実績 下段: 24年度実績	25年度目標	25年度実績 (達成率)	活動の状況 評価理由
活動指標	指定無形民俗文化財の保護		保存団体と時機に応じて適切に協議します。	保存団体と時機に応じて適切に協議を実施。	協議を通じて、保存団体の要望や活動状況、課題などを把握することができました。
	指定無形民俗文化財を保護するため、保存団体と時機に応じて適切に協議します。			%	
				%	

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	本事業は、昭和48年から指定無形民俗文化財の保存団体に対して補助金を交付しているものです。補助金は、保存団体が行う伝承者の養成や文化財の公開のほか、用具の購入や修理の費用の一部に充てられており、子どもたちに対する技術の伝承など、伝統文化の保存・継承につながっています。市の指定無形民俗文化財保存団体の活動は、参加者の会費や地域の寄付金などで賄われており、保存団体の伝承活動に対する市の補助金は、文化財の保存・継承のため、有益な手段となっています。25年度は、指定無形民俗文化財の保存活動を行っている16団体に対し、補助金を交付しました。
	「経済性」 (同成果を低コストで) 「効率性」 (同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	1件あたりの補助金は5万円程度のものが大半です。文化財保護法第182条、北九州市文化財保護条例で、市は文化財の保存及び活動に要する費用を補助できることとなっており、指定無形民俗文化財の伝承者の育成、公開や道具の補修にかかる費用を市が支援することで、文化財保存団体の活動の強化につながると考えます。引き続き、保存団体に対して周知を行うとともに、限られた財源の中で、時機に応じて適切に協議をしながら事業を進めていきます。

P D C A チェックシート (平成 25 年度実績評価)

担当局	市民文化スポーツ局
担当課	文化振興課
課長名	瀬戸口
施策番号	III - 2 - (2) - ①
事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input checked="" type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()
コスト	事業費 25年度当初予算額 178,492 千円 25年度執行額 160,590 千円 (事業費備考)
目安の金額	3,550 千円
課長	0.05 人
係長	0.17 人
職員	0.17 人
	(人件費備考)

事業概要			
事業名	芸術文化活性化事業		
事業概要	【劇場・自主事業】 エンターテインメントから芸術性の高い作品まで舞台芸術全般を網羅し、幅広い年代層をターゲットに公演を行います。また、北九州芸術劇場オリジナルの演劇作品等を制作し、公演を実施します。 【響ホール・自主事業】 室内専用ホールの特性を生かした質の高いコンサートや響ホールを拠点として地元演奏家を積極的に育てるコンサートを行います。また、響ホールからの発信を意識した、オリジナリティのある演奏会を実施します。		
コスト	25年度当初予算額 178,492 千円 25年度執行額 160,590 千円 (事業費備考)	人件費	目安の金額 3,550 千円 課長 0.05 人 係長 0.17 人 職員 0.17 人 (人件費備考)

【Action】改善			
課題	H23年度の評価結果を受けての課題	見直し内容	芸術劇場及び響ホールの特性を活かしながら、芸術性が高く幅広いラインナップの事業を推進します。また、実施にあたっては経済性や効率性も考慮に入れながら、効果的な事業となるよう工夫します。
	芸術劇場及び響ホールの特性や地域性を生かし、多彩で良質な舞台芸術やクラシック音楽を今後も継続して提供する必要がある。また本市独自のオリジナル公演については、本市の文化・芸術のけん引力となるため、質の向上や、プログラムの充実にも努める必要があります。経済性や効率性も意識しながら取り組む必要があります		

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を) 芸術劇場及び響ホールの自主事業 目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 【芸術劇場・自主事業】ラインナップの拡大を図ることで観客層を拡大し、都市の賑わいとシティブランドを創出し、市民生活に潤いと誇りを提供します。また、質の高い独自の舞台作品を全国にアピールするとともに舞台芸術創造の発信拠点となることを目指します。 【響ホール・自主事業】国内外の一流の演奏家や国内外で活躍する地元の演奏家等の起用を通じて本物の音楽に触れる機会を提供します。また、オリジナリティある企画公演を提供し、響ホールから高レベルの音楽文化を発信することを目指します。	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	順調	
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方) 北九州芸術劇場・自主事業入場率 北九州芸術劇場は、良質な舞台芸術の鑑賞機会の拡大や、オリジナルの演劇作品等の制作、公演を行っています。自主事業入場率の目標値を設定します。 (最終目標と目標年度)80% 平成26年度 響ホール・自主事業入場率 音楽専用ホールとしての響ホールの特性を生かした質の高い音楽鑑賞の機会の提供やオリジナリティのある企画を実施しています。自主事業入場率の目標値を設定します。 (最終目標と目標年度)65% 平成26年度	上段:23年度実績 下段:24年度実績 25年度目標	25年度実績(達成率) 25年度実績(達成率)	成果の状況 評価理由	87 % 80 % 88 % 110.0 % 68 % 65 % 82 % 126.2 %

活動計画	どうやって目的を達成するか 【劇場・自主事業】事業予算の効果的な執行を図りながら、良質で幅広いラインナップの舞台芸術を提供します。また、北九州芸術劇場のプロデュース作品をはじめ、国内で活躍するアーティスト・カンパニーや国内の拠点劇場との共同制作作品など、高いレベルでの作品づくりに取り組み、全国に情報発信を行います。 【響ホール・自主事業】新規性と独創性に富んだオリジナリティのある公演の提供、市民が優れた本物の音楽に触れる機会の提供等を行い、ホール自体の価値を高め、響ホールから高レベルの音楽文化を発信します。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	順調	
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明) 北九州芸術劇場・自主事業の実施 北九州芸術劇場で良質な舞台の提供を行います。また、オリジナルの演劇作品等を制作し、公演します。 響ホール・自主事業の実施 音楽専用ホールとしての響ホールの特性を生かした良質な音楽の鑑賞機会を提供します。また、オリジナリティのある企画の公演を行います。	上段:23年度実績 下段:24年度実績 25年度目標	25年度実績(達成率) 25年度実績(達成率)	活動の状況 評価理由	良質な舞台の提供及びオリジナルの演劇作品の制作 良質な音楽鑑賞の機会及びオリジナリティのある企画の公演の提供

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 劇場・自主事業では、質が高く幅広い舞台を提供しました。また、創造する劇場として市内外に発信するとともに質の高い作品制作力を市内外に発信することができました。響ホール自主事業では音楽専用ホールとしての響ホールの特性を生かした良質な音楽を鑑賞する機会を提供しました。また、コンサートの質、プログラムの先進性・オリジナリティなどについて高い評価を受けました。劇場・自主事業、響ホール自主事業はともに、本市独自の質の高い公演であるため、本市の芸術・文化のけん引となる発信力の高い事業です。全国への情報発信、まちの魅力づくりに成果を上げたものと評価できます。 【経済性】(同成果を低コストで) 【効率性】(同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点 劇場・自主事業、響ホール自主事業は共に、市の外郭団体が行っており、市が直接運営するより、コスト面で効率的な運営ができています。引き続き、更に経済性や効率性を意識した取り組みを行う必要があると考えています。本市において、芸術・文化のけん引となる発信力の高い事業を計画的に、総合的に実施できる団体は存在しないため、市が関与することが不可欠であると考えます。

P D C A チェックシート (平成 25 年度実績評価)

事業概要				担当局	市民文化スポーツ局	
				担当課	文化振興課	
事業名 北九州国際音楽祭				課長名	瀬戸口	
				施策番号 Ⅲ - 2 - (2) - ①		
事業概要 地域の音楽文化の向上を図ることを目的に、クラシックコンサートを中心とした音楽祭に助成を行うものです。本音楽祭は、市制25周年を記念して始まり、25年度で26回を数え、本市の秋を彩る催し物として定着しています。				事業手法 <input type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()		
コスト	事業費	25年度当初予算額	25年度執行額	人件費	課長	0.05 人
		40,000 千円	28,320 千円		係長	0.06 人
				目安の金額	職員	0.06 人
				1,625 千円	(人件費備考)	

【Action】改善

課題	H23年度の評価結果を受けての課題 平成24年度の来場者満足度が若干減少しているため工夫が必要であると考えています。また、経済性や効率性を意識した取り組みの継続が今後も課題です。	見直し内容	企画の内容や実施方法をより充実させ、満足度のアップを目指します。また、経済性や効率性を意識した取り組みを今後も進めます。
----	--	-------	--

【Plan】計画

【Do】実施 → 【Check】評価

目的	対象(誰を、何を) 地域の音楽文化	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) ①「総合音楽祭」の確立、②芸術性の追求・発信、③“北九州らしさ”の創造、④顧客満足度の向上、⑤若者世代の取り込み、⑥情報発信の強化を掲げ、国内トップクラスの音楽祭の実現を目指し地域の音楽文化の向上を図ります。		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	大変順調
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	成果の状況 評価理由	
	北九州国際音楽祭の満足度の割合	83 %	85 %	99 %	目標を大幅に達成し、地域の音楽文化の向上に貢献できました。	
	来場者のコンサートの満足度の割合を指標とし、これまでの実績を参考に、85%を目標とします。 (最終目標と目標年度)85% 平成26年度	79 %		116.5 %		
	(最終目標と目標年度)			%		

活動計画	どうやって目的を達成するか 国内外で活躍中の旬のアーティストの招聘、北九州オリジナル企画の充実、若年者層を対象とした鑑賞事業などバラエティに富んだプログラムで質の高い国際レベルのコンサートを実施します。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	順調	
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	活動の状況 評価理由
	北九州国際音楽祭の入場者数	12,425 人	11,500 人	13,072 人	目標入場者数も達成し、本市の文化の振興を推進できました。
	本事業のプログラム①有料プログラム、②教育プログラム、③特別プログラム、④協賛事業の入場者数を指標とし、これまでの実績を参考に指標を設定します。	12,689 人		113.7 %	
				%	

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	国際音楽祭は、本市を代表する文化事業として、市内外へ大きく情報発信をするとともに、地域の文化力向上に大きく寄与しており、「発信力の高い芸術・文化の振興を図っていく上で重要な事業です。本市出身で世界で活躍する演奏家をはじめ、国内外の一流の演奏家を招き、良質な音楽の提供を通して本市の文化の振興」を推進したものと評価できます。入場者数、満足度ともに増加しており、順調といえます。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	市の外郭団体が実行委員会の事務局を担っており、市が直接運営するより、コスト面で経済的な運営ができています。引き続き、さらに現状よりも経済性や効率性を意識した取り組みを行う必要があると考えます。本市を代表する音楽イベントである国際音楽祭は、歴史もあり、知名度もあることから、継続的に実施することによってこれまでの積み重ねを最も効果的に生かせるものと考えています。本市において芸術・文化のけん引力となる発信力の高い事業を経済的に実施できる純粋な民間団体は存在せず、市が関与することが不可欠であると考えます。

P D C A チェックシート (平成 25 年度実績評価)

担当局	市民文化スポーツ局
担当課	文化政策課
課長名	用田

事業概要

事業名	芸術文化育成負担金・補助金				施策番号	
					Ⅲ - 2 - (2) - ②	
事業概要	本市の文化水準の向上及び地域文化の振興を推進することを目的として、積極的に文化活動を展開している文化団体等の事業に対して、市が予算の範囲内において助成を行う事業です。				事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input checked="" type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
	コスト	25年度当初予算額	25年度執行額	(事業費備考)		課長
	40,750 千円	40,250 千円		係長	0.30 人	(人件費備考)
				職員	0.30 人	
				目安の金額	5,825 千円	
				人件費		

【Action】改善

課題	H23年度の評価結果を受けての課題 市民レベルでの文化芸術活動の支援・促進を図ります。	見直し内容	継続して、事業規模の再検討、補助金のみに頼らない協賛拡大など運営体制の指導を行います。
----	--	-------	---

【Plan】計画

【Do】実施 → 【Check】評価

目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	順調
	様々な分野や年代の人が	広く文化芸術に親しむことの出来る環境づくりを下支えします。			
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	成果の状況 評価理由
	各種文化事業数 積極的に文化活動を展開している文化団体等へ助成を行い、文化祭や定期演奏会等のコンサートなどを実施し、本市の文化水準の向上や個性ある地域文化の振興、市民の芸術文化活動促進を図ります。 (最終目標と目標年度) 16事業 平成25年度	16 事業 15 事業	16 事業	16 事業 100.0 %	積極的に文化活動を展開している文化団体等へ助成を行い、文化祭や定期演奏会等のコンサートなどを実施し、本市の文化水準の向上や個性ある地域文化の振興、市民の文化芸術活動促進を図れました。また、補助金を受けている団体においても協賛拡大を実現するなど、行政と団体とが協働して、補助金のみに頼らない文化活動のあり方について研究・実現することができました。
	(最終目標と目標年度)			%	

活動計画	どうやって目的を達成するか	本市の文化水準の向上や個性ある地域文化の振興、市民の文化芸術活動促進のため積極的に文化活動を展開している文化団体等へ助成を行います。あわせて、より効果的な文化芸術活動の支援のあり方についても検討を行います。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	順調
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	活動の状況 評価理由
	芸術文化育成負担金・補助金交付団体数 市民の文化芸術活動の促進を図るための補助金を交付する団体数を指標とします。	16 団体 15 団体	16 団体	16 団体 100.0 %	補助を行い、本市の特性である市民レベルでの文化芸術活動の支援、促進が図れたため。
				%	

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	助成制度や助成団体数の多寡が直接政策の取り組みの指標や成果を示すものではないと考えていますが、本市にはプロの芸術家や音楽家は非常に少なく、働きながら文化活動を行っているケースが多数であり、助成制度の存在により一定の市民レベルでの活動を支えている側面はあると考えます。各団体の定期演奏会や文化祭は予定どおり実施されており、多数の来場者の満足を得たものと思われることから、文化水準の向上や個性ある地域文化の振興、市民の文化芸術活動促進が図られたものと評価します。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	事業規模の再検討、補助金のみに頼らない協賛拡大など、運営体制についての指導も必要だと考えます。助成制度により市民レベルでの文化芸術活動を支えており、制度の有効性は高いと考えます。魅力ある「まちづくり」を担う「人材」の育成のため、現在のところ事業主体は市が適当と考えます。

P D C A チェックシート (平成 25 年度実績評価)

担当局	市民文化スポーツ局
担当課	文化振興課
課長名	瀬戸口

事業概要							
事業名	北九州市文化振興基金					施策番号	Ⅲ - 2 - (2) - ②
	事業概要 北九州市の文化水準の向上と地域文化の振興に資することを目的として設置された北九州市文化振興基金運用果実により、市民の行う芸術・文化活動等に対し助成を行います。					事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()
コスト	事業費	25年度当初予算額	25年度執行額	(事業費備考)	人件費	目安の金額	課長 0.05 人 係長 0.10 人 職員 0.30 人 (人件費備考)
		15,726 千円	10,745 千円			3,825 千円	

【Action】改善			
課題	H23年度の評価結果を受けての課題	市民の自主的な文化・芸術活動を支援する事業であるため、政策的に助成件数を増加させるものではありませんが、一定の応募が継続するよう取り組みを継続します。	見直し内容 今後も一定の応募が継続し、地域の文化水準の向上と振興に資することが出来るよう周知を行うとともに、効果的な助成となるよう努めます。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)		成果の状況	順調
	市民の行う文化・芸術活動等	本事業は文化振興への寄附金等の運用益を原資とし、市民の自主的な芸術・文化活動に対する助成や、資力のない児童に対する奨学金の交付などを実施し、本市の芸術・文化活動の更なる活性化を目指します。		代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	成果の状況 評価理由
	北九州市文化振興基金奨励事業の補助件数	25 件	25 件	21 件	昨年度に比べ、件数は減少していますが、限られた予算のなかで、市民の自主的な芸術・文化活動の助成を行うことができました。
	地域文化の裾野を支える市民の自主的な芸術・文化活動に対し、事業補助金を交付します。 (最終目標と目標年度) 平成26年度 20件	31 件		84.0 %	
	(最終目標と目標年度)			%	

活動計画	どうやって目的を達成するか	半年に一度(上半期、下半期の2回)、北九州市文化振興基金奨励事業の募集を行います。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	順調
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	活動の状況 評価理由
	北九州市文化振興基金奨励事業の募集実施回数	2 回	2 回	2 回	限られた予算のなかで、例年通り上期と下期の募集を行い、広く募集をすることができました。
	半年に一度(上半期、下半期の2回)、北九州市文化振興基金奨励事業の募集を行います。	2 回		100.0 %	
				%	

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	<p>【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点</p> <p>文化振興基金の助成件数については、市民の自主的な活動に対して行うものであるため、政策的に増加させるものではありませんが、一定の件数の効果的な助成を行うことができたと評価できます。今後も引き続き効果的な広報に努めます。</p> <p>【経済性】(同成果を低コストで) 【効率性】(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点</p> <p>本事業の財源は、篤志家による寄附金等の運用益が原資となっているため、一般財源の持ち出しが少なく済み、経済性は高いと考えています。本事業の実施形態(寄附金等の運用益を原資にして実施)から、実施主体は市以外は考えられません。</p>

P D C A チェックシート (平成 25 年度実績評価)

事業概要							担当局	市民文化スポーツ局
							担当課	美術館普及課
事業名 美術館企画展充実事業							課長名	榎田
							施策番号	
事業概要 美術館本館及び分館において、多彩で魅力ある企画展を開催し、本市の美術・文化の振興を積極的に推進します。							事業手法 <input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()	
コスト	事業費	25年度当初予算額	25年度執行額	(事業費備考)	人件費	目安の金額		課長 0.25 人
		150,454 千円	136,600 千円			36,750 千円	係長 0.65 人 職員 3.65 人	(人件費備考)

【Action】改善

課題	H23年度の評価結果を受けての課題	来館者については、減少傾向にあるものの、引続き目標入場者数300,000人に向けて、幅広い作品の展覧会を開催し、多くの市民が美術作品に触れる機会を創出します。	見直し内容	厳しい財政事情を踏まえ、開催経費やその他の経費を精査した上で、気軽に楽しめる美術作品や世界的な美術作品など幅広い作品の展覧会やテーマを明確としたコレクション展を開催し、多くの市民の来館を目指します。

【Plan】計画

【Do】実施 → 【Check】評価

目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	大変順調
	市民、芸術文化活動をしている人など	市民が日常生活の中で多様な芸術・文化に接し、豊かな感性の育成と教育文化の向上を目指し質の高い作品などに接する機会を提供していきます。また、芸術・文化活動を行っている人たちに発表や交流の機会を提供します。				
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)		上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	美術館の入館者数		189,623 人	300,000 人	363,190 人	
	入館者数は、魅力ある展覧会を開催するうえで最もわかりやすい指標です。 (最終目標と目標年度) 年間300,000人 平成25年度		262,267 人		121.1 %	
	コレクション展の観覧者数		28,251 人	50,000 人	48,010 人	
コレクション展は、学芸員が、美術館の所蔵作品を利用して市民や子どもたちのために自主企画する展覧会で、美術館単独での成果指標になります。 (最終目標と目標年度) 50,000人 平成26年度		39,443 人	96.0 %			

活動計画	どうやって目的を達成するか	収蔵作品及び作家についての研究を含め、テーマ性のあるコレクション展や気軽に楽しめる美術作品や世界的な美術作品など幅広い作品を展示した企画展を実施します。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	大変順調	
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)		上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	展覧会の開催回数		72 回	70 回	131 回	
	幅広い作品の展覧会を開催し、多くの市民の来館を目指します。		72 回		187.1 %	
	コレクション展のテーマ件数		9 回	10 回	6 回	
美術館所蔵の作品を有効に活用して、テーマ性のある魅力的な展覧会を開催します。		10 回	60.0 %			

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	各コレクション展のテーマ件数を絞り、そのテーマ性を前面に押し出すことで、年間を通じて中身が濃く豊かな内容を紹介できました。また、テーマに合わせて様々な角度から調査内容を掘り下げることができました。入館者数については、人気のある大型展を開催したこと等により、目標人数を達成し、さらに2割以上の増加となりました。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点	厳しい財政事情を踏まえ、開催経費やその他の経費を精査した上で、その年の目玉となる大規模な企画展の開催やコレクション展の展示替え等を計画的に実施し、市民が楽しめるような展覧会を今後も開催していくように努めます。

P D C A チェックシート (平成 25 年度実績評価)

事業概要				担当局	市民文化スポーツ局
				担当課	自然史・歴史博物館普及課
事業名 博物館企画展・特別展充実事業				課長名	栗原
				施策番号 Ⅲ - 2 - (2) - ③	
事業概要 企画展・特別展は、特定のテーマを設けて自然史や歴史に関する展示を行うことによって、市民が楽しく学べる場を提供し、本市の学術文化の発展を図るものです。 (平成25年度特別展実績) ・市制50周年記念「北九州市の宝もの」(4月20日～6月16日)、・夏の特別展「世界の昆虫展」(7月13日～9月1日)、・秋の特別展「邪馬台国が見える!古代日本の原風景」(9月14日～11月4日)、・冬の特別展「仁川広域市立博物館・旅順博物館の名品展」(12月21日～2月11日)、・春の特別展「まるごと猫展」(3月15日～3月31日)				事業手法	
				<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 () (人件費備考)	
コスト	25年度当初予算額	25年度執行額	(事業費備考) ・博物館企画展・特別展開催事業 53,956千円 ・市制50周年記念「北九州市の宝もの展」6,000千円	目安の金額	課長 1.40人 係長 1.80人 職員 5.40人
	59,956 千円	54,672 千円		74,600 千円	

【Action】改善

課題	H23年度の評価結果を受けての課題 H25年3月23日のリニューアルオープンや夏の特別展など誘客力の高い企画や展示演出により入館者数は当初計画を大幅に上回る実績を達成することができました。しかし、今後はリニューアル効果の減衰や予算削減などによる魅力ある大型企画展の開催縮小が予想される中、入館者数の実績維持は困難な状況となっています。	見直し内容	市民の興味関心を呼ぶ、魅力あふれる特別展(年4回程度)を開催し、市民の自然や歴史に対する関心を高めるなかで一層の入館者数の確保を図ります。また企画展・特別展の開催にあたっては実行委員会形式による開催や補助金の受入などによる外部資金の導入・活用を積極的に行うことにより事業費確保などの課題克服に取り組みます。
----	--	-------	---

【Plan】計画

【Do】実施 → 【Check】評価

目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	大変順調
	特別展入館者数	市民の興味関心を呼ぶ、魅力あふれる特別展(年4回程度)を開催し、市民の自然や歴史に対する関心を一層高めます。				
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	成果の状況 評価理由	
	博物館総入館者数	375,654 人	350,000 人	622,701 人	H25年3月23日のリニューアルオープンや夏の特別展など誘客力の高い企画や展示演出及びそれらの相乗効果により、入館者数は当初計画を大幅に上回る実績を達成することができました。	
	常設展・特別展に加え、普及講座等の開催により、より多くの方に博物館に來館していただくことで、本市の文化発展に資することとします。 (最終目標と目標年度) 350,000人 平成25年度	369,711 人		177.9 %		
				%		

活動計画	どうやって目的を達成するか 市民や子どもたちの自然や歴史に対する関心を育み応える場として、①年4回にわたり四季折々に特別展を開催、②ポケットミュージアムの展示更新、③博物館の様々な専門分野の学芸員による各種講演会や室内講座、野外観察会の開催、等に取組みます。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	大変順調	
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	活動の状況 評価理由
	企画展・特別展入館者数	133,902 人	115,000 人	209,387 人	H25年3月23日のリニューアルオープンや夏の特別展など誘客力の高い企画や展示演出及びそれらの相乗効果により、入館者数は当初計画を大幅に上回る実績を達成することができました。
	市民の興味関心を呼ぶ、魅力あふれる特別展(年4回程度)を開催し、市民の自然や歴史に対する関心を一層高めます。	152,581 人		182.1 %	
	教育普及講座の実施回数	66 回	50 回	65 回	
学芸員の専門知識や研究成果を活用し、市民の自然史及び歴史に対する関心を育むことを目的に講座を開催します。	61 回	130.0 %			

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	総入館者数及び企画展・特別展入館者数ともに当初計画を大幅に上回る実績を達成できたため大変順調であるとしました。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	この数年間にわたり当初予算額が縮減されるなか、企画展・特別展の実行委員会形式による開催や補助金の受入など外部資金の導入・活用を積極的に行うことにより、魅力ある展示会開催の事業費確保を図るとともに、実行委員会にマスコミ関係団体を加えることで低コストかつ効果的な広報PR効果を創出するなどして課題克服に努め、一定の成果を上げることができました。

P D C A チェックシート (平成 25 年度実績評価)

事業概要							
事業名	芸術文化体験事業					担当局	市民文化スポーツ局
						担当課	文化振興課
事業概要	通常の演奏会や公演の鑑賞ではなく、様々な形で子どもたちが身近に芸術文化を体験できるように、地元文化団体等が企画した芸術体験プログラム(ワークショップ等)を夏休み期間中に集中的に実施し、親子で芸術文化を楽しむ機会の拡充に努めます。					課長名	瀬戸口
						施策番号	
コスト	事業費	25年度当初予算額	25年度執行額	(事業費備考)	人件費	目安の金額	課長 0.05 人 係長 0.17 人 職員 0.17 人
		6,621 千円	5,013 千円			3,550 千円	(人件費備考)
						事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()

【Action】改善			
課題	H23年度の評価結果を受けての課題	見直し内容	事業の質を落とすことなく、低コストで事業が実施できるよう外部委託等を継続して検討していきます。
	低コストで高い効果が得られるよう工夫を継続していく必要があると考えています。		

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	大変順調
	市内の子どもたち(小中学生)	文化体験を通して、子どもたちの豊かな情操を養うとともに、芸術文化に対する関心を高め、未来の文化の担い手として育成します。			
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	成果の状況 評価理由
	子ども文化ふれあいフェスタ参加者の満足度	96 %	90 %	94 %	参加者の満足度が目標を達成したことから、文化体験をとおり、子ども達の豊かな情操を養うことができたと考えています。
	子ども文化ふれあいフェスタの参加者の満足度を指標とします。 (最終目標と目標年度)90% 平成26年度	90 %		104.4 %	
	(最終目標と目標年度)			%	

活動計画	どうやって目的を達成するか	8月下旬に文化団体等が企画したワークショップを実施し、芸術文化に対する関心を高めます。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	大変順調
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	活動の状況 評価理由
	子ども文化ふれあいフェスタ体験型事業への参加率	96 %	80 %	100 %	定員に対し、多くの応募があり、子ども達の芸術文化に対する関心を高めることができました。
	子ども文化ふれあいフェスタで開催される体験型イベントへの参加率とします。	100 %		125.0 %	
				%	

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	<p>【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点</p> <p>子ども文化ふれあいフェスタは、子どもたちが普段接することがあまりないと思われる伝統芸能の分野(日本舞踊、いけばな、琴等)を中心とした体験型の催事です。実際に体験してもらうことで、その楽しさを実感してもらえました。</p> <p>【経済性】(同成果を低コストで) 【効率性】(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点</p> <p>子ども文化ふれあいフェスタについては、当日の運営業務等は外部委託を行い、低コストで実施しています。しかし、高い効果が得られるように、更に工夫してまいります。</p>

P D C A チェックシート (平成 25 年度実績評価)

		担当局	市民文化スポーツ局	
		担当課	文化振興課	
		課長名	瀬戸口	
事業名	現代美術センター・CCA北九州支援事業			施策番号
				Ⅲ - 2 - (2) - ④
事業概要	CCA北九州は、現代美術の世界的な拠点のひとつとなることを目指して活動している研究・学習機関です。国内外から集まる現代美術の若手アーティスト等の指導育成、招聘アーティストによる新作発表のための展覧会、国内外の第一線で活躍する学芸員による「キュレーターミーティング」を開催するとともに、CCA北九州のネットワークを活かして、その活動を広く市民に浸透させるための市民美術大学美術講座、子ども向けワークショップなどの事業を行っています。			事業手法
				<input type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()
コスト	事業費	25年度当初予算額	25年度執行額	(事業費備考)
		57,590 千円	57,582 千円	
		人件費	目安の金額	課長 0.10 人 係長 0.70 人 職員 0.90 人
			14,900 千円	(人件費備考)

【Action】改善

課題	H23年度の評価結果を受けての課題	見直し内容	リサーチプログラムにおいては、海外からの受講生の中には、経済的要因で来日困難になったケースがあり、目標をやや下回っています。展覧会、一般公開事業への参加者数はほぼ目標どおりとなりました。今後は限られた予算の中で、受講者の確保、CCA事業の市民へのいっそうの浸透と、より多くの市民参加に努めていきます。
			リサーチプログラムにおいては、若手アーティストの中から一定レベルの受講生の確保を図りつつ、現在の募集人数を減らして選考し、展覧会や一般参加事業では充実した内容のプログラムを維持しながら、開催方法・諸経費削減等の見直しをする努力を行い、予算は縮小します。

【Plan】計画

【Do】実施 → 【Check】評価

目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	順調
	若手アーティスト等 まち、市民の発信力・文化力	リサーチ・プログラムでは、世界のアートシーンで活躍しうる人材育成を目指し、CCA北九州の評価と認知度を高めます。また、市民を対象に本市の芸術文化の担い手として育成し、発信力の高い芸術・文化の振興を図ります。			
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績 (達成率)	成果の状況 評価理由
	リサーチプログラムの受講者数	6 人	6 人	5 人	リサーチプログラム受講者については、合格者数では目標どおりでした。また、事業参加者については、1回当たり参加者は、前年を上回っており、いずれも順調と考えています。
	国内外の若手アーティスト等が本市に滞在しながら自身の制作活動を進めるプログラムであり、世界に通用する人材育成を目指しています。今後はさらにプログラムを充実させていきます。 (最終目標と目標年度) 6人程度 平成26年度	4 人		83.3 %	
	CCA北九州事業参加者人数	2,122 人	2,200 人	1,920 人	
現代美術展覧会の実施、一般公開事業(市民美術大学、サウンドワークショップ等)の魅力ある、質の高い事業が維持できるよう努めます。 (最終目標と目標年度) 2,200人 平成26年度	2,041 人	87.3 %			

活動計画	どうやって目的を達成するか	リサーチプログラムの充実を図り、北九州から世界に通用するアーティスト等を育成していきます。また、世界の第一線で活躍するアーティストによる現代美術展覧会の実施や多様な現代美術関連事業を展開し、さらに地域との連携を深めることで、活動のいっそうの浸透と芸術文化の担い手の育成を図ります。これらのプログラムの多くは市からの補助金で実施されています。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	順調
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績 (達成率)	活動の状況 評価理由
	リサーチプログラム受講生の活動及び発表回数	3 回	2 回	2 回	講師の日程調整が整わなかったことにより、若干目標には届きませんでしたが、ほぼ予定どおりに実施することができました。
	世界の第一線で活躍するアーティスト等を講師として招聘し、受講生はレクチャーを受けていますが、その成果を発表する場(展覧会等)を一層充実させていきます。	2 回		100.0 %	
	CCA北九州事業実施回数	21 回	20 回	19 回	
CCA北九州の持つ人的ネットワークを活かして引き続き質の高い各種講座等を開催していきます。	22 回	95.0 %			

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、 外部要因などの視点	リサーチプログラムの受講者数については、合格者数では目標数を確保していましたが、受入決定後に経済的理由で参加を取りやめたケースがありました。また、事業参加者人数については、悪天候などにより当日の参加者に影響した事業があったものの、1回当たり参加者で見れば増加しているため順調としました。 活動状況については、予算の縮減に努めながら、幅広い階層に人気の市民美術大学や子ども向けのワークショップ、実験音楽コンサートなど多様な講座や展覧会をほぼ予定どおり開催することができました。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	これまで培ってきたCCAのネットワークを活かして、美術関係者や講師から採算を度外視した協力や支援をいただき、各事業を行っています。国内外から一流のアーティストを低いコストで招聘するだけでなく、市民向けの多彩な事業を効率的に展開しています。

P D C A チェックシート (平成 25 年度実績評価)

担当局	市民文化スポーツ局
担当課	文学館
課長名	米満

事業概要							
事業名	北九州市子どもノンフィクション文学賞					施策番号	Ⅲ - 2 - (2) - ④
	「ノンフィクション」というジャンルの作文を書くことで、子どもたちが人間や社会への関心をもつ契機となり、思考能力や人間としての成長を促すことを目的に、平成21年度に全国の小中学生を対象に創設した文学賞です。					事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()
コスト	事業費	25年度当初予算額	25年度執行額	(事業費備考)	人件費	目安の金額	課長 0.05 人 係長 0.30 人 職員 0.30 人 (人件費備考)
		13,565 千円	9,817 千円			5,825 千円	

【Action】改善

課題	H23年度の評価結果を受けての課題 平成21年度創設で、まだ歴史の浅い文学賞なので、応募数は変動的で応募地域も各年度でばらつきがあります。今後も引き続き、市内・外に向けて、当文学賞の認知度を高めるための積極的なPR活動が必要と考えます。	見直し内容	今後は、市内応募数の増加を図るとともに、全国への事業周知にも努めます。引き続き積極的にPRし、メディアとのタイアップも検討しながら、認知度を高めます。
----	---	-------	---

【Plan】計画

【Do】実施 → 【Check】評価

目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	やや遅れ
	未来を担う子どもたち	ノンフィクション作品を書くという体験を通じて、人間・社会への関心や思考力を高めながら成長していく契機とします。 また、将来本市より芥川賞、直木賞を受賞するような未来の作家を数多く輩出することを目指します。			
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	成果の状況 評価理由
	北九州市子どもノンフィクション文学賞への市内からの応募割合		50 %	39 %	平成25年度は、市内からの応募割合は前年度から上がっているものの、学校単位での応募の減少等により、応募全国ブロック数が減り、目標にも達成していないため、「やや遅れ」としました。 しかし、応募作品の質が年々向上していることは、審査員からも高い評価を受けており、今後は、より効果的な広報活動を行うことで、より幅広い事業展開を図ります。
	子どもたちが自身の体験を通して、ノンフィクション分野の文学にふれる機会となる「北九州市子どもノンフィクション文学賞」への応募総数における市内からの応募割合を指標とします。 (最終目標と目標年度)50% 平成26年度	35 %		78.0 %	
	北九州市子どもノンフィクション文学賞応募全国ブロック数	12 ブロック	17 ブロック	10 ブロック	
全国規模での事業展開状況が分かる指標として九州以外の全国を8ブロックに分け、九州8県と海外応募を含めて17ブロックとし、指標とします。 (最終目標と目標年度)17ブロック 平成26年度	14 ブロック		58.8 %		

活動計画	どうやって目的を達成するか	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	順調	
	年1回の「北九州市子どもノンフィクション文学賞」作品募集を継続します。				
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	活動の状況 評価理由
	「北九州市子どもノンフィクション文学賞」作品募集における的を絞った広報		効果的な全国・北九州地域での広報	%	各種媒体の効果的な活用により、全国及び北九州地域での広報を行うことができました。
	費用対効果の面から広報媒体を厳選しつつ、全国及び市内向けの効果的な広報を行います。			%	
				%	
			%		

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	平成25年度は応募ブロック数の減少等により、目標には達せず、「やや遅れ」と評価しました。 しかし、応募作品の質が年々向上していることについては、審査員からも高い評価を受けており、今後とも全国の子どもたちへの文学賞を広く発信していくことは、文化の担い手の育成に大きく貢献すると思えます。 なお、成果指標については、事業の方向性と連動したものを設定する必要があり、現在の指標が適当なものであるか、再検討する必要があると思われます。
	【経済性】(同成果を低コストで) 【効率性】(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	広告媒体を厳選する等、予算の効率的執行に努めました。 現在のところ、他の実施主体は考えられず、実施主体は市が適当であると思えます。

P D C A チェックシート (平成 25 年度実績評価)

事業概要						担当局	市民文化スポーツ局		
						担当課	漫画ミュージアム		
事業名	北九州市漫画ミュージアム普及事業					課長名	川副		
						施策番号		III - 2 - (2) - ⑤	
事業概要	北九州市漫画ミュージアムにおいて、常設展示の充実・企画展・イベント等の開催を通じて漫画文化の普及を目指します。					事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()		
							コスト	事業費	25年度当初予算額
		62,000 千円	59,465 千円				44,000 千円		

【Action】改善

課題	H23年度の評価結果を受けての課題	※H24からの事業のため、H23の評価なし	見直し内容	
----	-------------------	-----------------------	-------	--

【Plan】計画

【Do】実施 → 【Check】評価

目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	順調
	市民や国内外からの利用者	様々な漫画の魅力が幅広い世代に伝わり、多くの人へ漫画文化が普及するとともに館を含めた周辺地域への集客、にぎわいがある状態を目指します。			
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	成果の状況 評価理由
	来館者年間10万人	—	100,000 人	102,547 人	目標としている年間10万人の来館者数を達成し、順調と言えます。
	年間10万人の来館者を目指し、小倉駅新幹線口のにぎわいづくりに寄与します。	66,838 人		102.5 %	
	(最終目標と目標年度) 100,000人 平成26年度			%	
(最終目標と目標年度)					

活動計画	どうやって目的を達成するか	魅力的な企画展やワークショップ、イベントなどを開催し、目標入館者の確保に努めます。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	大変順調
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	活動の状況 評価理由
	企画展の開催回数	—	5 回	6 回	企画展は他都市類似施設との連携等により開催を増やすことができ、またワークショップについても折り紙制作など幼児等の子どもも参加できるものを開催し、来館者数の増加に努めました。
	漫画やアニメなど、魅力ある様々な企画展を開催し、集客を図ります。	5 回		120.0 %	
	ワークショップの開催回数	—	48 回	59 回	
漫画文化に親しみ、将来の漫画家を目指す人材を育てるため、漫画の描き方などを教える漫画スクールや漫画等に関連したワークショップを開催します。(月4回程度を予定)	32 回	122.9 %			

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	漫画文化の普及を図るため、企画展やワークショップを多数開催しました。企画展やワークショップの内容によって、性別を問わず、幅広い年代の方に参加いただき、多くの方へ漫画の魅力を伝え、漫画文化の普及が図られていると考えます。また、にぎわいづくりの観点からも、年間10万人を達成しており、順調と言えます。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	企画展開催には他都市の類似施設との連携やあるあるCityの協力を得ながら、開催コストを抑えることに努めています。またワークショップの開催には漫画ミュージアムサポーターなどの協力により、人件費の削減を図っています。民間活力導入に関しては、貴重な資料の取り扱いの観点から困難と思われる。

P D C A チェックシート (平成 25 年度実績評価)

事業概要							担当局	市民文化スポーツ局	
							担当課	スポーツ振興課	
							課長名	正代	
事業名	市民体育祭						施策番号		III - 2 - (3) - ①
							事業手法		<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input checked="" type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()
事業概要	「市民皆スポーツ」をモットーに、スポーツ・レクリエーションの普及振興を図り、市民の健康で明るい市民生活に寄与するため、市内全域で各種大会や行事を開催します。						目安の金額		課長 0.10 人 係長 0.20 人 職員 0.20 人
							コスト		25年度当初予算額 9,000 千円 25年度執行額 9,000 千円 (事業費備考)

【Action】改善			
課題	H23年度の評価結果を受けての課題	見直し内容	活動状況については、競技数が目標に達成したことなどから着実に事業が進められ順調に推移しています。今後も事業効果は維持しながら経費節減の可能性について検討を続ける必要があります。 国の助成金活用について検討・実施しました。今後も事業効果は維持しながら経費節減の可能性について検討を続けます。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック 順調	
目的	市民	市民参加型のスポーツイベントを開催し、多くの市民に参加いただくことで、市民のスポーツに対する興味・関心を高め、生涯にわたるスポーツに取り組み、健康で充実した生活を送ろうとする気持ちを高めます。				
	代表的な成果指標	指標	25年度実績	25年度実績(達成率)	成果の状況評価理由	
	市民体育祭参加者数	(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方) 市民体育祭参加者数	上段:23年度実績 56,214 人 下段:24年度実績 57,241 人	25年度目標 58,000 人	57,499 人 99.1 %	一部事業が雨天等で中止となりましたが、ほぼ目標どおりの人数が参加し概ね順調です。
	市民のスポーツに対する興味・関心を高め、スポーツへの取組状況が表れている同スポーツイベントへの参加者数を指標とします。 (最終目標と目標年度) 58,000人 平成25年度				%	

活動計画				活動の状況	
活動計画	どうやって目的を達成するか	イベント参加者数が増加するよう、競技団体とともに市民が参加しやすい内容にするよう努めるとともに競技数の確保に努めます。		活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック 順調
活動指標	指標	25年度実績	25年度実績(達成率)	活動の状況評価理由	
市民体育祭競技数	(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明) 市民体育祭競技数	上段:23年度実績 72 種目 下段:24年度実績 93 種目	25年度目標 93 種目	91 種目 97.8 %	一部事業が雨天等で中止となりましたが、ほぼ目標どおりの競技数を確保しています。
多くの市民がイベントに参加できるよう競技団体等の協力の下、競技数の確保・増加に努めます。				%	

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 活動の状況については一部事業が雨天等で中止となりましたが、ほぼ目標どおりの競技数を実施しています。一部事業が雨天等で中止となりましたが、ほぼ目標どおりの人数が参加し概ね順調です。 「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点 本事業は市を代表するスポーツイベントであり、多くの市民にも参加いただいているなど「誰もが気軽にスポーツに楽しめる環境づくり」を進めるには欠かせない事業であると考えます。しかしながら、「経済性」「効率性」の観点から本事業の効果や趣旨は残しつつ、効率的な運営と低コスト化を図るよう今後も努めていきます。

P D C A チェックシート (平成 25 年度実績評価)

事業概要							担当局	市民文化スポーツ局	
							担当課	スポーツ振興課	
							課長名	正代	
事業名	生涯スポーツ振興事業						施策番号		III - 2 - (3) - ①
							事業概要	市民への生涯スポーツ振興・普及のため、各区においてスポーツ教室、交流大会、ニュースポーツ体験会などを開催します。	
コスト	事業費	25年度当初予算額	25年度執行額	(事業費備考) 左記額には別事業費含む	人件費	目安の金額			
	21,288 千円	19,567 千円		990 千円		係長 0.05 人	職員 0.05 人	(人件費備考)	

【Action】改善

課題	H23年度の評価結果を受けての課題	見直し内容	活動状況については、競技者数が目標に達成したことなどから着実に事業が進められ順調に推移しています。今後も事業効果は維持しながら経費節減の可能性について検討を続ける必要があります。	今後も事業効果は維持しながら経費節減の可能性について検討を続けます。
----	-------------------	-------	---	------------------------------------

【Plan】計画

【Do】実施 → 【Check】評価

目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	順調
	市民	市民参加型のスポーツイベントを開催し、多くの市民に参加いただくことで、市民のスポーツに対する興味・関心を高め、生涯にわたるスポーツに取り組み、健康で充実した生活を送ろうとする気持ちを高めます。				
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	上段: 23年度実績 下段: 24年度実績	25年度目標	25年度実績 (達成率)	成果の状況 評価理由	
	各区におけるニュースポーツ及びファミリースポーツ大会等の参加人数	12,531 人	12,600 人	12,549 人	99.6 %	成果の状況については一部事業が雨天等で中止となりましたが、ほぼ目標どおりの人数が参加し概ね順調に推移しています。
本事業予算は、各区におけるスポーツ大会開催に係る審判謝礼金や用具代など大会運営を支える経費であり大会参加人数を指標とします。 (最終目標と目標年度) 平成30年度 12,600人	12,753 人			%		
	(最終目標と目標年度)					

活動計画	どうやって目的を達成するか	各区において、地域スポーツの普及振興を図るため各種スポーツの開催やニュースポーツの用具、備品整備を図ります。		活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	順調
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	上段: 23年度実績 下段: 24年度実績	25年度目標	25年度実績 (達成率)	活動の状況 評価理由	
	各区におけるスポーツ行事の開催数	103 回	100 回	106 回	106.0 %	活動の状況は着実に事業が進められ概ね順調に推移しました。
市民の機会創出を図るため、各区において行われる各種スポーツ大会開催数の確保・増加を図ります。	102 回			%		

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	活動の状況は着実に事業が進められ順調に推移しました。成果の状況については一部事業が雨天等で中止となりましたが、ほぼ目標どおりの人数が参加し概ね順調に推移しています。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	本事業は施策に対する有効性も高く「誰もが気軽にスポーツに親しめる環境づくり」を推進していく上で重要な事業であると考えています。本事業におけるスポーツ大会は市民主体による企画・運営に基づくものも多くあり、経費の支出も審判謝礼金・備品代など必要最小限の範囲で行われています。今後とも事業の「経済性」「効率性」の向上へ向けた視点を持ちつつ、着実な取り組みを進めていくことが適当であると考えます。

P D C A チェックシート (平成 25 年度実績評価)

事業概要					担当局	市民文化スポーツ局	
					担当課	スポーツ振興課	
事業名 総合型地域スポーツクラブ育成・支援事業					課長名	正代	
					施策番号		
総合型地域スポーツクラブは、人々が身近な地域でスポーツに親しむことのできるスポーツクラブです。多世代、多職種、多志向を特徴とし地域住民等により自主・主体的に運営される総合型地域スポーツクラブは、これからの地域スポーツの中核をなすものであり、この果たす役割は大きいことから総合型地域スポーツクラブの育成・支援に取り組みます。					事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他	
						(人件費備考)	
コスト	事業費	25年度当初予算額	25年度執行額	(事業費備考)	目安の金額	課長	0.05 人
		4,459 千円	3,397 千円			係長	0.10 人
					人件費	職員	0.10 人
					2,325 千円		

【Action】改善

課題	H23年度の評価結果を受けての課題	本市における成人の週1回のスポーツ実施率の向上のためにも、総合型地域スポーツクラブの果たす役割は大きいことから当該クラブの会員数拡大を目指すとともに、事業効果は維持しながら経費節減の可能性についての検討が必要です。	見直し内容	今後も事業効果は維持しながら経費節減の可能性について検討を続けます。
-----------	-------------------	---	--------------	------------------------------------

【Plan】計画

【Do】実施 → 【Check】評価

目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	順調
	市民	総合型地域スポーツクラブの会員数拡大による本市における成人の週1回のスポーツ実施率の向上を目指します。				
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	成果の状況評価理由 成果の状況につきましては、目標を上回り、昨年度より会員数が増加していることから概ね順調に推移していると判断しました。	
	総合型地域スポーツクラブの会員数	2,059 人	2,300 人	2,320 人		
	スポーツをする人、支える人など市民のスポーツへの関わりが表れている総合型地域スポーツクラブの会員数を成果指標とします。	2,111 人		100.9 %		
	(最終目標と目標年度)平成32年度までに4,000人			%		
	(最終目標と目標年度)			%		

活動計画	どうやって目的を達成するか	総合型地域スポーツクラブの会員数増加のためには、市民にとってクラブへの入会を魅力あるものにする必要があります。広報・PR強化のみではなくクラブの質の向上を図るため、交流事業や勉強会を定期的に開催し、指導者の充実やクラブを円滑・安定的に運営できる人材の育成等に努めます。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	順調	
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	活動の状況評価理由 活動の状況は着実に事業が進められ順調に推移しました。	
	総合型地域スポーツクラブのPR強化及び交流事業等の開催	—	交流行事や勉強会の定期的な開催	—		
	「総合型地域スポーツクラブ連絡協議会」を通じて、交流行事や勉強会を開催します。	—		%		
				%		

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	成果の状況につきましては、目標を上回り、昨年度より会員数が増加していることから概ね順調に推移していると判断しました。また、活動の状況は着実に事業が進められ順調に推移しました。
	【経済性】(同成果を低コストで) 【効率性】(同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点	本事業は施策に対する有効性も高く、地域住民が出し合う会費や寄附などにより自主的に運営される総合型地域スポーツクラブを支援することは、「誰もが気軽にスポーツに親しめる環境づくり」を効率的に推進していく上で重要な事業であると考えています。今後、クラブの運営・事業に例えば地域のスポーツ活動を支えていただいているスポーツ推進委員などが多く参加できる仕組みづくりを検討することなどにより、地域の活動促進及び経費節減を図るよう努めます。

P D C A チェックシート (平成 25 年度実績評価)

担当局	市民文化スポーツ局
担当課	スポーツ振興課
課長名	正代

事業概要								
事業名	国際大会・全国大会等スポーツ開催				施策番号 Ⅲ - 2 - (3) - ②			
	市内において国際大会・全国規模の大会の開催を行い、多くの市民にスポーツに関心を高め、「みる」スポーツのニーズを引き出し、スポーツに取り組むきっかけをつくります。また、高度なレベルの技術などを目にする事で、個々の競技力の向上につなげます。				事業手法 <input type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input checked="" type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()			
コスト	事業費	25年度当初予算額 4,340 千円	25年度執行額 3,700 千円	(事業費備考)	人件費	目安の金額 2,615 千円	課長 0.01 人 係長 0.10 人 職員 0.20 人	(人件費備考)

【Action】改善

課題	H23年度の評価結果を受けての課題	(公財)北九州市体育協会や(財)西日本産業貿易コンベンション協会など関係機関との協力を強化し、高い成果を挙げるとともに、今後は、全体のコストと他事業の関係性などを把握し、事業の整理や統合なども検討する必要があります。	見直し内容	自主事業である西日本少年柔道大会を平成25年度に廃止し、全体コストを削減しました。また、(公財)北九州市体育協会や(財)西日本産業貿易コンベンション協会など関係機関との協力を一層強化し、国際・全国規模の大会誘致に努めます。
----	-------------------	--	-------	---

【Plan】計画

【Do】実施 → 【Check】評価

目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	順調
	市民	実践するスポーツだけでなく、見るスポーツも多くの市民が望んでいます。競技レベルの高い大会を開催したり、誘致したりすることは、市民のスポーツに対する興味・関心を高め、スポーツに取り組むきっかけにもなります。また、高度な技術などを目にする事で、個々の競技力向上にもなり、まちの活性化につながります。				
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績 (達成率)	成果の状況 評価理由	
	国際・全国大会等の開催数	17 回	19 回	30 回	昨年度は市制50周年ということもあり西日本産業貿易コンベンション協会・各競技団体の協力を得ることで全国大会等のスポーツ大会開催数は増加しました。特に市制50周年記念事業である全国高校総体など大規模な大会が実施できました。加えて、スポーツイベントの参加人数は、目標を達成しています。	
	市内において国際・全国規模大会を開催することで、多くの市民にスポーツに関心をもたせスポーツに取り組むきっかけづくりを行います。加えて高度な技術に触れることによる競技力の向上やその集客力によって地域の活性化を目指します。	21 回		157.9 %		
	(最終目標と目標年度) 19回 平成25年度					
大型スポーツイベント(自主事業)の参加人数	4,895 人	3,000 人	3,222 人			
門司港レトロマラソンを開催し、健康の増進、競技力向上、集客による地域の活性化を目指します。	4,864 人			107.4 %		
(最終目標と目標年度) 3,000人 平成28年度						

活動計画	どうやって目的を達成するか	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)		活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	順調
	国際大会などの誘致活動や自主事業であるスポーツイベントを実施します。	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標			
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績 (達成率)	活動の状況 評価理由	
	国際大会など誘致活動の実施	-	誘致活動の実施	-	関係団体との情報交換を活発にし、連携を深めながら誘致活動を実施しました。	
	大会開催のインセンティブを宣伝し、各関係団体と連携して誘致活動を行います。	-		%		
	自主事業の実施	2 件	1 件	1 件		
自主事業の実施に伴い、関係機関との連絡調整を行いません。	2 件		100.0 %			

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、 外部要因などの視点	昨年度は市制50周年ということもあり西日本産業貿易コンベンション協会・各競技団体の協力を得ることで全国大会等のスポーツ大会開催数は増加しました。特に市制50周年記念事業である全国高校総体など大規模な大会が実施できました。加えて、スポーツイベントの参加人数は、目標を達成しており、概ね良好な状況です。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	(公財)北九州市体育協会や(公財)西日本産業貿易見本市協会など関係機関との協力を一層強化しながら、高い成果を挙げるとともに、今後は、全体のコストと他事業の関係性などを把握し、事業の整理や統合なども検討する必要があると考えます。

P D C A チェックシート (平成 25 年度実績評価)

事業概要					担当局	市民文化スポーツ局		
					担当課	スポーツ振興課		
事業名 ギラヴァンツ北九州支援事業					課長名	正代		
					施策番号			III - 2 - (3) - ②
事業概要 本市唯一のプロスポーツチームである「ギラヴァンツ北九州」を支援するため、ホームゲーム開催経費や遠征費の一部を補助しています。					事業手法 <input type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()			
						コスト	事業費	25年度当初予算額 60,000 千円

【Action】改善			
課題	H23年度の評価結果を受けての課題	J2リーグが原則日曜日開催となり、特にナイターでは親子連れやアウェイサポーターの来場が減少したことや、悪天候などによる来場者数の減少。	見直し内容 来場者アンケートなどで要望の高いチーム情報の周知やアクセスの改善にクラブと協力して、取り組みます。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	ギラヴァンツ北九州	本市唯一のプロスポーツチームである「ギラヴァンツ北九州」が、市民の一体感を高め、誇りや愛着を持てるシンボルとなり、真に市民に愛されるチームとなることを目指します。			やや遅れ
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	上段: 23年度実績 下段: 24年度実績	25年度目標	25年度実績 (達成率)	成果の状況 評価理由
	ギラヴァンツ北九州の市民認知度	88 %	90 %	89 %	ギラヴァンツ北九州の市民認知度は、ほぼ目標どおりとなりましたが、平均入場者数が減少したため、「やや遅れ」としました。
	チームの認知度は、愛着感を高めるために重要であると考え設定します。 (最終目標と目標年度) 平成28年度90%以上	88 %		98.9 %	
	ギラヴァンツ北九州主催試合の平均入場者数	4,051 人	4,000 人	3,175 人	
より多くの市民に実際に試合を見ていただくことが、チームの認知度や愛着感を高めるために重要であると考え設定します。最終目標はJ2の平均以上とします。 (最終目標と目標年度) 平成28年度6,500人以上 (H24年度J2平均6,423人)	3,346 人	79.4 %			

活動計画	どうやって目的を達成するか	ホームゲームを安全かつ安定的に開催することにより、来場された方に試合を楽しんでいただくことで、チームを応援する雰囲気醸成します。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	順調
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	上段: 23年度実績 下段: 24年度実績	25年度目標	25年度実績 (達成率)	活動の状況 評価理由
	ホームゲーム開催数	19	21 試合	21 試合	2013年シーズンも全21試合を滞りなく開催し、あわせて、来場者へのホスピタリティの向上を目標に、アウェイ客などへの観光パンフレット等の配布などを実施しました。今後も更なるホスピタリティの向上に努めるようクラブと協力して進めます。
	ホームゲームを事故なく安定的に開催します。	21		100.0 %	
	来場者に対するホスピタリティの向上	-	-	-	
観戦環境を整え、来場者にスポーツを観戦する楽しみを感じていただきます。	-	-	%		

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	<p>【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点</p> <p>成果目標の一つである平均入場者数については、選手の大幅な入れ替えや主力選手の怪我などによる序盤戦の成績不振などの影響で、目標を下回る結果となりました。ギラヴァンツ北九州も、現役選手が小学校を訪問し、子どもたちと触れ合う「スクール☆ギラヴァンツ」を開始するなど、地域に密着した取り組みを行なっているため、今後もクラブの観客数増に向けた取り組みをサポートしていきたいと考えています。</p> <p>【経済性】(同成果を低コストで) 【効率性】(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点</p> <p>同コストで更に高い効果をあげるためにも、クラブへの愛着感を向上させる取り組みや、ホームゲームへの来場に繋がる取り組みを、更に実施していく必要があると考えています。</p>

P D C A チェックシート (平成 25 年度実績評価)

事業概要						担当局	市民文化スポーツ局
						担当課	スポーツ振興課
事業名 ホームタウン推進事業						課長名	正代
						施策番号	
事業概要 本市をホームタウン・準ホームタウンとする、「ギラヴァンツ北九州」や「堺プレイザーズ」「福岡ソフトバンクホークス」の市民観戦事業や、体験教室の開催など、市民がスポーツに親しみきっかけ作りを実施します。						事業手法 <input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()	
コスト	事業費	25年度当初予算額	25年度執行額	(事業費備考)	人件費	目安の金額	課長 0.05 人
		64,450 千円	61,474 千円			6,575 千円	係長 0.15 人 職員 0.60 人
						(人件費備考)	

【Action】改善

課題	H23年度の評価結果を受けての課題	目標を下回っているスポーツ観戦率の向上のため、より幅広い市民に一流スポーツを「みる」機会を提供出来る活動を検討する必要があります。	見直し内容	ギラヴァンツ北九州のホームゲームで、区民デーの開催など、より簡単に市民が参加出来る仕組みをクラブと検討します。

【Plan】計画

【Do】実施 → 【Check】評価

目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	順調
	市民	競技レベルの高いプロスポーツや国際的・全国的スポーツ大会などを「みる」機会の充実を図ることにより、市民の一体感の醸成や青少年の健全育成等を目指す。				
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	成果の状況評価理由	
	スポーツ観戦率	21 %	25 %	24 %	成果目標としている「スポーツ観戦率」がほぼ、目標どおりとなったため、「順調」としました。	
	競技レベルの高いプロスポーツの試合を「みる」機会の充実を図る指標として欠かせないため設定します。最終目標は、北九州市スポーツ振興計画の目標である40%以上とします。 (最終目標と目標年度)平成32年度までに40%以上	19 %		96.0 %		
	(最終目標と目標年度)			%		

活動計画	どうやって目的を達成するか 本市をホームタウンとする「ギラヴァンツ北九州」をはじめ、準ホームタウンとする「堺プレイザーズ」等のスポーツチームの試合観戦事業等を実施します。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	順調	
	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)				上段:23年度実績 下段:24年度実績
活動指標	ギラヴァンツ北九州市民招待事業等による観戦者数	19,296 人	20,000 人	18,314 人	活動指標であるギラヴァンツ北九州と堺プレイザーズの招待者数において、おおむね目標どおりの数字となったため、「順調」としました。
	ギラヴァンツ北九州のホームゲームを「みる」機会を創出し、スポーツ観戦のきっかけ作りとします。	17,829 人		91.6 %	
	堺プレイザーズ親子招待事業による観戦者数	-	400 人	410 人	
	親子を対象に、本市を準ホームタウンとする堺プレイザーズの試合観戦機会を創出し、スポーツ観戦機会のきっかけ作りとします。	-	102.5 %		

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	市民招待などの実施により成果指標である「スポーツ観戦率」は、前年度と比較しても増加しました。今後更なる向上のために、まだ観戦したことない層への積極的なアプローチが必要だと考えています。
	【経済性】 (同成果を低コストで) 【効率性】 (同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点	本市でのプロスポーツ開催は、市民がレベルの高いスポーツに触れる機会の創出のみならず、経済効果やシティプロモーション効果も望めます。同コストでより高い効果を生むために、ホームゲームへの招待事業以外にも、有効な施策を継続していく必要があります。

P D C A チェックシート (平成 25 年度実績評価)

担当局	市民文化スポーツ局
担当課	スポーツ振興課
課長名	喜洲
施策番号	
Ⅲ - 2 - (3) - ③	
事業手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
コスト	()

事業概要				
事業名	戸畑D街区スポーツ施設整備事業			
	戸畑区内に点在し老朽化したスポーツ施設を、戸畑区役所横の浅生小・中学校等跡地(D街区)に集約整備します。			
事業費	25年度当初予算額	25年度執行額	(事業費備考)	人件費
	165,000 千円	153,840 千円		
			目安の金額	課長 0.30 人
			18,700 千円	係長 1.00 人
				職員 0.70 人

【Action】改善		
課題	H23年度の評価結果を受けての課題 順調に事業進捗しています。	見直し内容 順調に事業が進捗しているため、今後とも計画通り事業を進めていきます。

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
	市民	戸畑区役所横の浅生小・中学校跡地(D街区)において、戸畑区内に点在し、老朽化したスポーツ施設を集約し、本市のスポーツの拠点として体育館、武道場、室内温水プール、テニスコート、などを整備します。これにより、効率的な運営を進めるとともに、スポーツ環境の充実を目指し、市民の健康増進や地域の活性化を図っていきます。		-	
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	
	年間利用者数	-	-	-	
	集約整備後の施設利用者数を成果目標とします。 (平成24年度における戸畑区内の現状施設の利用者数:約140,000人) (最終目標と目標年度) 190,000人 平成30年度	-	-	%	施設完成後の利用者数を指標としていますので、現時点では評価は出来ません。
	(最終目標と目標年度)			%	

活動計画	どうやって目的を達成するか 平成22年度から、事業について地元や関係者に説明会等を重ね、合意形成を図ってきました。 平成25年度は、実施設計及び建設予定地内の既存建物の解体を行ないました。 平成26年度は、平成28年度の部分供用開始に向けて、建築工事に着手する予定です。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	順調
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)
	戸畑D街区スポーツ施設整備事業の進捗率	0.1 %	6.0 %	6.0 %
	平成28年度の部分供用開始を目指し、事業の進捗率を指標とします。 (事業費ベース)	1.0 %		100.0 %
				%

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	<p>【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点</p> <p>活動状況が達成率100%で順調に事業が進んでいるため、特にありません。</p> <p>【経済性】(同成果を低コストで) 【効率性】(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点</p> <p>特にありません。</p>

P D C A チェックシート (平成 25 年度実績評価)

事業概要							担当局	市民文化スポーツ局	
							担当課	地域振興課	
							課長名	杉本	
事業名	地域総括補助金						施策番号		III - 3 - (1) - ①
							事業概要		■ 直営 □ 補助金 □ 全部委託 □ 負担金 □ 一部委託 □ 指定管理 □ その他 ()
コスト	事業費	25年度当初予算額 421,271 千円	25年度執行額 410,510 千円	(事業費備考)	人件費	目安の金額 3,825 千円	課長 0.05 人 係長 0.10 人 職員 0.30 人	(人件費備考)	

【Action】改善

課題	H23年度の評価結果を受けての課題	見直し内容	まちづくり協議会へ地域総括補助金導入の働きかけを行い、導入数は増加しているものの、「体制が整わない」等の理由で導入を見送られている地域もあります。 導入団体拡大のため、引き続き、区役所コミュニティ支援課による、制度の周知や事務手順のマニュアルの配布等を行います。
----	-------------------	-------	--

【Plan】計画

【Do】実施 → 【Check】評価

目的	対象(誰を、何を) まちづくり協議会	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	順調
代表的な成果指標	指標	(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	25年度実績	25年度目標	25年度実績 (達成率)	成果の状況 評価理由
	地域総括補助金を導入したまちづくり協議会数	120 団体	129 団体	99.2 %	目標としていた団体数を概ね達成したことから、順調としました。	
地域総括補助金制度を導入し、これを原資に自主的な地域づくり・まちづくりの活動を行ったまちづくり協議会の数を指標とします。 (最終目標と目標年度) 平成30年度 136団体	123 団体			%		
(最終目標と目標年度)						

活動計画	どうやって目的を達成するか	区役所コミュニティ支援課と連携し、未導入団体への積極的な働きかけを行うとともに、申請方法の簡素化、他に加えることのできる補助金がないのかの洗い出しを行い、その改善策等を検討します。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	順調	
活動指標	指標	(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	25年度実績	25年度目標	25年度実績 (達成率)	活動の状況 評価理由
	地域総括補助金未導入まちづくり協議会	6 団体	6 団体	100.0 %	目標としていた団体数を達成したことから、順調としました。	
地域総括補助金制度を導入していないまちづくり協議会(平成25年度未導入まち協数13団体中、6団体)に対し、各区コミュニティ支援課が継続的に制度の説明等、働きかけを行います。	6 団体			%		

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】	を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	まちづくり協議会への働きかけにより、導入する団体数は順調に増えています。今後は、地域活動が促進されるように、補助金の内容の見直しについて検討を進めていきます。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点		制度の導入により、これまで各部署が行ってきた「補助金交付」に関する事務について、区役所コミュニティ支援課に集約され効率化が図られています。

P D C A チェックシート (平成 25 年度実績評価)

担当局	市民文化スポーツ局
担当課	地域振興課
課長名	杉本

事業概要							
事業名	住民主体の地域づくりの促進					施策番号	
						Ⅲ - 3 - (1) - ①	
事業概要	地域情報や課題解決のアイデア等を盛り込んだ「地域カルテ」の作成や、まちづくり協議会の活性化を図るため、活動の参考となる事例の紹介等を行う「地域のちから」報告会や、「地域づくりマネジメント研修」を開催し、住民主体の地域づくりを促進します。					事業手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
	コスト	25年度当初予算額	25年度執行額	(事業費備考) 地域コミュニティ活性化推進事業 / 自治会等コミュニティ活動促進事業 /	人件費		目安の金額
	8,964 千円	6,118 千円			3,575 千円		

【Action】改善

課題	H23年度の評価結果を受けての課題	地域カルテづくり事業を通して、様々な地域活動の取り組みに向けての気運が高まっています。しかし、新たな活動に取り組めない地域もあります。	見直し内容	地域カルテ事業については、既に自ら様々な課題解決の活動に取り組んでいる団体や、十分な活動に取り組めない団体などがあり、地域の実情に応じて働きかけ等を行っていきます。
----	-------------------	---	-------	--

【Plan】計画

【Do】実施 → 【Check】評価

目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)			成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	順調
	まちづくり協議会・一般市民	地域カルテを通じて、住民による地域の課題や地域資源の共有化、課題解決のための処方箋づくりを進めるとともに、それに基づく、新たな地域課題解決に向けた取り組みを支援し、住民主体の地域づくりを促進します。					
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	成果の状況 評価理由		
	住民主体の新たな地域づくりが活発に行われている状態	-	-	- %	地域がかかえる課題や、その解決に向けた取り組みの内容は様々であり、指標化は出来ませんが、まちづくり協議会を中心とした住民主体の地域づくりは順調に進んでいます。		
	市は、まちづくり協議会が地域課題解決のための活動を、主体的に行えるようなきっかけ作りや側面的な支援は行いますが、地域がかかえる課題や、その解決に向けた取り組みの内容は様々であり、指標として具体的に数値化することはできません。	-	-	#VALUE ! %			
	(最終目標と目標年度) -						
(最終目標と目標年度)			%				

活動計画	どうやって目的を達成するか	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)			活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	順調
	まちづくり協議会や地域づくり団体等に事業の主旨を説明し、事業実施の働きかけを行います。	地域づくりカルテ事業実施についてまちづくり協議会への働きかけ					
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	活動の状況 評価理由		
	地域づくりカルテ事業実施についてまちづくり協議会への働きかけ	7 団体	7 団体	7 団体	目標とする団体数を達成したことから、順調としました。		
	地域カルテづくりについて、まちづくり協議会に対し、区役所コミュニティ支援課と連携し、継続的に事業実施の働きかけを行います。	13 団体		100.0 %			
	まちづくり協議会への「地域の”ちから”報告会」参加の働きかけ	136 団体	136 団体	136 団体			
まちづくり協議会が活動の参考となる事例の紹介等を行う「報告会」(H25年度:「地域コミュニティをみんなで考え行動するフォーラム」として実施)について、まちづくり協議会へ区役所コミュニティ支援課と連携し参加の働きかけを行います。	136 団体		100.0 %				

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	地域の課題解決、人材育成等に有効な手法である地域カルテづくり事業の実施やまちづくり協議会の事例報告会への参加により、まちづくりの手法の習得や情報共有が進み、住民主体の地域活動への取り組みに向けて気運が高まっています。引き続き、区コミュニティ支援課と連携しながら進めていきます。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	ワークショップ等の実施については、民間のコーディネーターに委託し、民間による地域づくりのノウハウの導入や経済性・効率性の向上に配慮しています。

P D C A チェックシート (平成 25 年度実績評価)

事業概要					担当局	市民文化スポーツ局	
					担当課	地域振興課	
事業名 市民センターの充実					課長名	杉本	
					施策番号		III - 3 - (1) - ②
事業概要	市民センターの管理運営を円滑・適正に行うため、公募により多様な人材を市民センター館長として採用し、地域の活動を担うまちづくり協議会への管理委託などを行います。また、市民センターを拠点とした地域づくりを推進するため、未整備校区に市民(サブ)センターを整備し、老朽化対策やバリアフリー化を図り計画的な改修を行います。					事業手法 () (人件費備考)	
							<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
コスト	事業費	25年度当初予算額	25年度執行額	(事業費備考)	人件費	目安の金額	課長 1.00 人 係長 1.50 人 職員 3.30 人
		2,077,507 千円	1,951,523 千円			51,250 千円	

【Action】改善

課題	H23年度の評価結果を受けての課題	これまでの取り組みにより、市民センターの利用者数は順調に増加していますが、今後は市民センターを利用した地域ごとの課題解決に向けた取り組みへ、より多くの人に参加してもらうことが必要です。	見直し内容	市民センターの事業や地域の活動について、タイムリーな情報発信に努めます。また、市民センターの機能向上は地域活動促進に有効であるため、今後も計画的な改修工事等に努めていきます。
-----------	-------------------	--	--------------	---

【Plan】計画

【Do】実施 → 【Check】評価

目的	対象(誰を、何を)	地域住民	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	市民センターを拠点とした地域活動を活性化させるため、市民センターの安全性や利便性の向上を図り、より多くの地域住民が活動に参加し、コミュニティ活動を活発に行っている状態を目指します。	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	順調
	代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	市民センター1館当たりの利用者数	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	成果の状況 評価理由
		1館当たりの利用者は、コミュニティ施設としての市民センターの利用度を図る指標になるため、成果指標としました。	40 千人	41 千人	40 千人	市民センターの利用者数は、やや減少していますが、昨年に引き続き、コミュニティ活動への参加人数は目標を上回っており、地域活動は活発に行われているため、順調としました。	
		(最終目標と目標年度) 41,000人 平成25年度	41 千人		97.6 %		
		市民センターにおけるコミュニティ活動の参加人数(延べ)	1,699 千人	1,774 千人	1,935 千人		
	市民センター全館におけるコミュニティ活動参加者の合計人数。市民センターにおける様々な活動のうち、コミュニティ活動の参加人数は地域活動の状況を把握する目安となるため指標としました。 (最終目標と目標年度) 1,774千人 平成25年度	1,962 千人		109.1 %			

活動計画	どうやって目的を達成するか	市民センターの利用者増加に向けて、館長及び市民センター職員の能力向上を図る研修を行うとともに、更なる情報発信に努めます。また、老朽化が進んだ市民センターについては、耐震化や施設機能の向上を図るための大規模改修を計画的に行います。市民サブセンターの設置については、地元との合意が得られたところから順次整備をします。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	順調	
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	ホームページを毎月1回以上更新している市民センターの館数	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	活動の状況 評価理由
		市民センターの事業や地域の活動などの様々な情報をタイムリーに発信するために、ホームページによる広報活動を充実させます。	128 館	129 館	120 館	館長や市民センター職員の交代により、年度当初に更新ができなかった館が9館ありましたが、その後は、毎月更新が行えているので順調としました。 市民センターの整備は、1館の工事について地元調整に時間を要し翌年度に繰り越しましたが、その後は概ね予定どおり進んだため順調としました。
		市民センター整備の進捗状況	90 %	100 %	93.0 %	
		本年度は大規模改修にかかる工事2館及び設計4館、空調改修工事2館、エレベーター新設工事1館、耐震補強工事2館の実施を予定しており、年度末までに全ての完了を目指します。	96 %		90.0 %	

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	市民センターの利用者数は、前年度をやや下回りましたが、コミュニティ活動への参加人数が目標を上回ったことや、市民センターの整備も概ね計画どおりに進んだことから順調としました。 今後も引き続き、タイムリーな情報発信などにより利用者増を図るとともに、アセットマネジメントを踏まえて、住民にとって使いやすい市民センターの整備に努めていきます。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点	市民センターについては、管理運営の一部をまちづくり協議会に委託していますが、より効率的・効果的な運営のため、指定管理者制度の導入を含めた管理運営の見直しについて検討を進めていきます。なお、清掃業務など維持管理業務の一括発注等のコスト削減に取り組み、経済性・効率性の高い運営を行っています。 市民センターの整備については、大規模改修工事の基本的な内容を統一し、公共工事として競争入札を行うなど、効率的・経済的な発注に取り組んでいます。

P D C A チェックシート (平成 25 年度実績評価)

担当局	市民文化スポーツ局
担当課	地域振興課
課長名	杉本

事業概要							
事業名	自治会・町内会活性化の促進					施策番号	Ⅲ - 3 - (1) - ③
	自治会と連携しながら、加入率向上や組織・活動の見直し及び人材育成など新たな課題への対応につながる様々な事業に取り組み、自治会・町内会の活性化を図ります。					事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()
コスト						事業費	25年度当初予算額
		32,300 千円	29,608 千円				

【Action】改善			
課題	H23年度の評価結果を受けての課題	地域づくり活動への貢献意識や、参加の割合は高いものの、自治会加入世帯が減少し、活動への参加者が少なくなるなど、自治会の活性化に繋がっていません。	見直し内容 現役世代の自治会活動等への参加促進に向けた事業を行うとともに、自治会が取り組む加入促進に繋がる活動を支援する新たな事業を実施します。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)		成果の状況	順調
	住民	住民の自治会への理解が深まり、活動に積極的に参加する等、自治会活動が活発化する状態を目指します。		代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	成果の状況 評価理由
	地域づくり活動へ肯定的な考えの市民の割合(意識)	75.4 %	80 %	80.1 %	地域づくり活動へ肯定的な市民の割合は目標を上回るものとなっており、地域づくり活動への参加者の割合も目標とした数値は概ね達成したことから、順調としました。
	市民意識調査の「活動へ参加している人」と「機会があれば参加したいと考えている人」の割合を指標とします。高齢等で参加できない人を考慮し、85%を目指します。 (最終目標と目標年度) 平成27年度 85%	84.1 %		100.1 %	
	地域づくり活動への参加者の割合(行動)	40.5 %	43 %	42.0 %	
市民意識調査の活動への参加率を指標とします。目標は、活動には概ね1世帯から1人が参加していること、1世帯あたりの人数が平均2.3人であることを踏まえて、全人口に対する参加者の割合46%を目指します。 (最終目標と目標年度) 平成27年度 46%	45.4 %	97.7 %			

活動計画	どうやって目的を達成するか	自治会・町内会が行う加入者の増加や人材育成等の取り組みを応援します。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	順調
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	活動の状況 評価理由
	広報・研修等の事業数	13 回	13 回	13 回	目標とした事業数を達成したことから、順調としました。
	自治会活動の活性化及び自治会加入促進につながる広報・研修等の事業数	12 回		100.0 %	
			%		

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	<p>【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点</p> <p>地域活動への参加意識や活動への参加者の割合は概ね目標に達していますが、前年度と比べ数値が減少しています。引き続き、北九州市自治会連合会と連携しながら、自治会活動の広報や子ども、現役世代等、世代に応じた働きかけを行うとともに、加入促進活動に取り組む単位自治会への補助等、地域の実情に応じた支援を行い、自治会・町内会の加入促進や活性化を図ります。</p> <p>【経済性】(同成果を低コストで) 【効率性】(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点</p> <p>自治会活動の活性化や自治会加入促進については、北九州市自治会総連合会と連携し、チラシやポスターによる広報や活動事例集の作成・配布を行っています。今後は、民間企業との連携にも取り組んでいきたいと考えます。</p>

P D C A チェックシート (平成 25 年度実績評価)

事業概要						担当局	市民文化スポーツ局
						担当課	市民活動推進課
事業名 NPO・ボランティア活動促進事業						課長名	山田
						施策番号	
事業概要 NPO・ボランティア活動等の市民活動促進や、市民活動団体等と行政の協働促進のため、市民活動や協働等に関する相談受付や情報提供、研修・啓発事業を行うとともに、コミュニティの他施設と連携して、市民活動を担う人づくりを行います。						事業手法 <input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()	
						コスト	事業費
18,055 千円	15,314 千円	20,700 千円	係長 0.60 人 職員 1.50 人	(人件費備考)			

【Action】改善			
課題	H23年度の評価結果を受けての課題	計画どおり推移しています。市民活動サポートセンターのコミュニティへの移転に伴い、登録団体の継続利用と新たな利用団体の掘り起しが、課題となります。	見直し内容 コミュニティ移転を機に、市民活動サポートセンターの機能拡充、他施設との連携促進、認証・認定事務を通して得られた団体ニーズに応じた支援等に取り組みます。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	市民及び市民活動団体等	地域の課題に自ら対応し、市民が自発的、主体的に公益活動に参画する市民社会の形成に向けて、まちづくりの重要な担い手であるNPOやボランティア団体などの活動を促進します。			順調
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段: 23年度実績 下段: 24年度実績	25年度目標	25年度実績 (達成率)	成果の状況 評価理由
	新規設立NPO法人数(累計)	— 法人(累計)	30 法人(累計)	31 法人(累計)	新規設立NPO法人数及び市民活動サポートセンター利用者数は目標を上回る達成状況のため、順調としました。
	市民が主体的に発足させた市民活動団体(NPO法人)数です。 (最終目標と目標年度) 28年度 75法人	18 法人(累計)		103.3 %	
	市民活動サポートセンター利用者数(単年度)	20,428 人	21,000 人	22,935 人	
今後、市民活動に携わりたい方々や、既に活動に取り組んでいる団体等からの相談や施設利用など、市民活動サポートセンターの利用者数です。 (最終目標と目標年度) 28年度 24,000件	21,309 人		109.2 %		

活動計画	どうやって目的を達成するか	市民活動サポートセンターを拠点に、NPO・ボランティア団体に関する総合的な相談受付、NPO・ボランティア活動情報の提供、専門講座・講演会等の研修・啓発を実施します。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	順調
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段: 23年度実績 下段: 24年度実績	25年度目標	25年度実績 (達成率)	活動の状況 評価理由
	講座実施数	3 講座	5 講座	12 講座	市民からの要望があった対象を絞り込んだ講座を追加開催した結果、設定した目標を達成したため、順調としました。
	今後、市民活動に携わりたい方々への啓発や、既に活動に取り組んでいる団体の運営強化、活動の充実を支援する講座を開催します。	6 講座		240.0 %	
	広報誌などの発行	12 回	12 回	12 回	
市民活動に取り組む団体等に、他団体の活動やイベント、助成金など、活動に役立つ情報を提供するため、広報誌を発行します。	12 回		100.0 %		

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	<p>【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点</p> <p>例年実施しているNPO入門セミナーに加えて、法人運営に関する必要な基礎知識の習得のためのNPO法人入門説明会を開催した結果、新たに13団体のNPO法人が設立され、既存法人の組織や活動の強化が図られました。成果指標、活動指標ともに概ね目標を達成できたので、順調と判断しました。</p> <p>【経済性】(同成果を低コストで) 【効率性】(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点</p> <p>市民活動サポートセンターは、公共施設の活用により行政窓口の一部として運営しており、職員に加えてボランティアによる専任の相談員を配置するなど、市民が利用しやすい環境づくりに努めています。</p>

P D C A チェックシート (平成 25 年度実績評価)

担当局	市民文化スポーツ局
担当課	市民活動推進課
課長名	山田

事業概要

事業名	NPO公益活動支援事業				施策番号	
					Ⅲ - 3 - (2) - ①	
事業概要	市民活動のさらなる促進を図るため、NPO等が専門性を発揮して行う、意欲的で先進的な取り組みを支援します。また、あらかじめ市が設定したテーマに対して、NPO等から専門性を活かした提案を募集し、提案団体と市が協働して相乗効果を発揮しながら取り組む事業を支援します。				事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
	コスト	25年度当初予算額	25年度執行額	(事業費備考)		人件費
	4,975 千円	4,399 千円			4,650 千円	(人件費備考)

【Action】改善

課題	H23年度の評価結果を受けての課題	見直し内容	補助事業件数は、計画を上回るペースで実績を挙げていますが、市民活動団体等が専門性を十分に発揮して取り組む地域課題の解決に向けては、事業実施と成果の両立が求められています。	市民活動団体等が専門性を十分に発揮して取り組む地域課題の解決に向けて、補助事業を実施する際、アドバイス等の支援を行うことにより、効率的に事業を実施します。
----	-------------------	-------	---	---

【Plan】計画

【Do】実施 → 【Check】評価

目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	順調
	市民活動団体等	専門性を発揮して行う、意欲的かつ先進的な公益活動(地域の課題解決につながる活動や公共の福祉の向上に資する活動など)に対して助成を行うとともに、これらの活動事例の紹介、情報提供を通して、本市におけるNPO活動の拡大を図ります。			
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	成果の状況 評価理由
	NPO公益活動支援事業補助金の交付件数(累計)	36 件(累計)	42 件(累計)	52 件(累計)	目標を上回る達成状況で、いずれの事業も地域課題の解決につながる公益性の高い事業であったため、順調としました。
	市内全域を対象とするまちづくり活動、地域課題の解決につながる活動、市のイメージアップに寄与する活動に対する補助交付件数の累計を評価の指標とします。 (最終目標と目標年度) 28年度に補助事業累計件数が60件	42 件(累計)		123.8 %	
	成果発表会の参加人数(累計)	80 人(累計)	180 人(累計)	199 人(累計)	
活動事例の幅広い情報提供等を通して、本市におけるNPO活動の更なる発展を図るため、成果発表会の参加人数を指標とします。 (最終目標と目標年度) 28年度に参加者累計人数が330人	136 人(累計)		110.6 %		

活動計画	どうやって目的を達成するか	市内全域を対象とするまちづくり活動やイメージアップに寄与する活動等に対する支援を行います。地域に密着した市民活動を促進するまちづくりステップアップ事業の採択団体も含めて、広くお知らせすることにより、当事業の利用促進を図っていきます。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	順調
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	活動の状況 評価理由
	市民活動団体等に対する補助事業の広報	—	補助事業の積極的な活用を呼びかける広報活動	—	積極的な広報活動により、申請件数が増加(9件→14件)したため、順調としました。
	地域に密着した市民活動を促進する「まちづくりステップアップ事業」の採択団体も含めて、当事業の活用を広く市民にお知らせします。	—		— %	
	補助事業のモデルケースの広報	2 回	2 回	2 回	
地域課題の解決につながるような先進的な取り組みなど、採択された事業の成果発表会を実施するとともに、市民活動サポートセンターのHPや広報誌等で発信します。	2 回		100.0 %		

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	当該事業は、NPOによる地域課題の解決に向けた専門的で先駆的な実践を伴うものであり、市民福祉の向上に大きな成果をあげるとともに、事業の審査や成果の公開・広報を通して、市民活動の活性化に大きく寄与しています。平成25年度に採択された事業は、いずれも公益性が高く、NPOの専門性や先駆性が活かされた事業でした。また、市が設定したテーマに応じたNPOの専門性を活かした事業提案を、市とNPOが協働で実施し、様々な課題の解決に取組みました。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間力導入の視点	地域の実情に精通した団体や、高い専門性を有する団体が、地域課題の解決に取り組んでいるため、効果的かつ効率的な事業となっています。NPOと行政が協働して取り組む事業については、行政課題に対して、NPOの専門的・先駆的な発想を導入することで、行政が直接実施することに比べ、より効率的で効果的な成果を得ることができました。

P D C A チェックシート (平成 25 年度実績評価)

担当局	市民文化スポーツ局
担当課	市民活動推進課
課長名	山田

事業概要							
事業名	まちづくりステップアップ事業					施策番号	
						Ⅲ - 3 - (2) - ②	
事業概要	市民主体のまちづくりを推進するため、地域の特性を活かした活動や地域の活性化に資する新たなまちづくり活動を支援します。					事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他
							()
コスト	事業費	25年度当初予算額	25年度執行額	(事業費備考)	人件費	目安の金額	課長 0.03 人
		7,016 千円	6,004 千円			1,220 千円	係長 0.05 人 職員 0.05 人

【Action】改善

課題	H23年度の評価結果を受けての課題	見直し内容	市内広域を対象とするNPO公益活動支援事業等と相互連携を図りながら、本事業は地域に密着した地域活動の支援へ注力することで、様々な市民(地域)活動の活性化を図ります。
----	-------------------	-------	--

【Plan】計画

【Do】実施 → 【Check】評価

目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)			成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	順調
	市民活動団体等	市民が、地域の特性を活かして取り組む公益的な活動(地域住民の交流の促進に関する活動や子どもの健全育成・子育ての支援に関する事業など)に対して助成を行い、市民主体のまちづくりを推進します。					
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	成果の状況 評価理由		
	市民活動団体等に対する補助金交付件数(累計)	116 件	183 件(累計)	182 件(累計)			
	地域に密着した市民活動団体等の活動を促進するため、きめ細かな支援を図る必要があります。市民活動団体等に対する補助金交付件数の累計を評価の指標とし、より多くの団体が市民活動に関わるきっかけづくりとなるような補助交付の実施に努めます。	148 件		99.5 %			
	(最終目標と目標年度) 平成28年度までに273件			%			

目標をほぼ達成したため、順調としました。また、各区とも幅広い分野で申請があり、地域課題の解決につながる公益性の高い事業が全市的に実施されたと考えます。

活動計画	どうやって目的を達成するか	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)			活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	順調
	市民が主体的に行う、地域の課題解決や活性化に資する活動を支援するため、区毎に活動申請を審査し、適切な支援を行っていきます。地域課題の解決につながるような先進的な取り組みなど、補助事業のモデルケースを市民活動サポートセンターのHPで広報・発信し、その活用を広く市民にお知らせします。	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)			
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	活動の状況 評価理由		
	市民活動団体等に対する補助事業実施回数	7 回	7 回	7 回			
	地域に密着した市民活動団体等の活動を促進するため、きめ細かな支援を図る必要があります。市内の7区全区で着実に補助事業を募集し、全ての地域で市民活動が活性化されるように努めます。	7 回		100.0 %			
	補助事業のモデルケースの広報	—		H25年度まではHP等での発信は実施していません。H26年度から実施予定です。			

目標を達成したため、順調としました。

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、 外部要因などの視点	当該事業は、地域イベント等、住民相互の交流促進や地域の活性化などに大きな成果をあげるとともに、事業の審査や成果の公開・広報を通して、市民活動の活性化にも寄与しています。
	【経済性】(同成果を低コストで) 【効率性】(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	地域の実情に精通した地域団体や、高い専門性を有する市民活動団体が、主体的に地域課題の解決に取り組んでいるため効果的かつ効率的な事業です。また、外部委員を含む審査会において、申請事業の妥当性や効率性を審査するとともに、必要に応じて指導や助言を行うこととしており、より実効性があるものと考えています。

P D C A チェックシート (平成 25 年度実績評価)

事業概要						担当局	市民文化スポーツ局
						担当課	市民活動推進課
事業名 「NPOとの協働によるまちづくり」人材育成事業						課長名	山田
						施策番号	
事業概要 NPO等や市職員を対象とした、団体相互間の協働に関する理解を深めるための研修を実施します。また、地域課題解決について、多様な主体が参加するワークショップを開催します。						事業手法 <input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()	
コスト	事業費	25年度当初予算額	25年度執行額	(事業費備考)	人件費	目安の金額	課長 0.10 人
		1,940 千円	1,179 千円			3,650 千円	係長 0.10 人 職員 0.20 人

【Action】改善

課題	H23年度の評価結果を受けての課題	NPOとの協働についての研修参加者数は順調に目標を達成しましたが、協働については、関係者によってそれぞれの思いや捉え方が異なることが課題としてあげられます。引き続き市民活動や協働についてのより具体的な理解を促進する必要がありますと考えます。	見直し内容	協働のあり方に関する基本指針に基づき、まちづくりの人的ネットワークの構築等に力を入れることで、協働による住みよいまちづくりに資する人材の育成を図ります。
-----------	-------------------	--	--------------	--

【Plan】計画

【Do】実施 → 【Check】評価

目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	順調
	市民活動団体等	多様化・複雑化する市民ニーズに対応しながら、更に質の高い市政運営を進めていくためには、行政とNPO・市民活動団体とのパートナーシップを積極的に推進し、協働して地域課題の解決に取り組むことが重要です。そのため、協働を進めるための環境づくりや意識醸成を図ります。			
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	NPOとの協働についての研修への参加者数(累計)	297 人	400 人(累計)	536 人(累計)	目標を達成したため、順調としました。研修に参加した団体同士のネットワーク化が図られ、実際に協働につながる例もありました。
	市民活動に対する理解を促進し、NPOとの協働に対して理解を深めるための研修への参加者の累計を評価の指標とします。	430 人		134.0 %	
	(最終目標と目標年度)平成28年度までに参加者数700人			%	
(最終目標と目標年度)			%		

活動計画	どうやって目的を達成するか	協働についての理解を広めるため、職員研修や市民向け研修を開催します。また、より良い協働事業の実現のため、協働事業の担当者や団体関係者との合同セミナーを開催し、協働推進に必要な人材の育成を図ります。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	順調
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	セミナー開催数	2 回	2 回	3 回	NPO、地域、市職員等様々な主体が研修に参加し、目標を達成しました。協働への関心の度合いが高まりつつあると考え、順調と判断しました。
	活動指標として、協働理念の普及を推進するために実施するセミナーの開催数を評価の指標とします。	2 回		150.0 %	
				%	
			%		

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	協働についての理解を広めるため、職員研修や市民向け研修を開催しました。また、より良い協働事業の実現のため、各団体間のネットワーク構築やコーディネート力を発揮するための研修などを通して、協働によるまちづくりのための相互理解が進んだと考えます。
	「経済性」 (同成果を低コストで) 「効率性」 (同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点	協働によるまちづくりを進めるためには、市民みんなが、力をあわせて取り組むことが必要となります。市が仲介することで協働の促進がより進む部分があり、市の関与は有効です。

P D C A チェックシート (平成 25 年度実績評価)

事業概要							担当局	市民文化スポーツ局	
							担当課	市民活動推進課	
							課長名	山田	
事業名	NPO・ボランティア活動促進事業						施策番号		Ⅲ - 3 - (3) - ②
事業概要	NPO・ボランティア活動等の市民活動促進や、市民活動団体等と行政の協働促進のため、市民活動や協働等に関する相談受付や情報提供、研修・啓発事業を行うとともに、コミュニティの他施設と連携して、市民活動を担う人づくりを行います。						事業手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()	
コスト	25年度当初予算額 18,055 千円	25年度執行額 15,314 千円	(事業費備考)	人件費	目安の金額 20,700 千円	課長 0.30 人 係長 0.60 人 職員 1.50 人		(人件費備考)	

【Action】改善

課題	見直し内容
H23年度の評価結果を受けての課題	計画どおり推移しています。市民活動サポートセンターのコミュニティへの移転に伴い、登録団体の継続利用と新たな利用団体の掘り起しが、課題となります。 コミュニティ移転を機に、市民活動サポートセンターの機能拡充、他施設との連携促進、認証・認定事務を通して得られた団体ニーズに応じた支援等に取り組みます。

【Plan】計画

【Do】実施 → 【Check】評価

目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	順調
	市民及び市民活動団体等	地域の課題に自ら対応し、市民が自発的、主体的に公益活動に参画する市民社会の形成に向けて、まちづくりの重要な担い手であるNPOやボランティア団体などの活動を促進します。			
代表的な成果指標	指標	上段: 23年度実績 下段: 24年度実績	25年度目標	25年度実績 (達成率)	成果の状況 評価理由
	新規設立NPO法人数(累計)	— 法人	法人 (累計)	31 法人 (累計)	新規設立NPO法人数及び市民活動サポートセンター利用者数は目標を上回る達成状況のため、順調としました。
	市民が主体的に発足させた市民活動団体(NPO法人)数です。	18 法人	30 法人 (累計)	103.3 %	
	(最終目標と目標年度) 28年度 75法人		21,000 人	22,935 人	
市民活動サポートセンター利用者数(単年度)	20,428 人		109.2 %		
	今後、市民活動に携わりたい方々や、既に活動に取り組んでいる団体等からの相談や施設利用など、市民活動サポートセンターの利用者数です。	21,309 人			
	(最終目標と目標年度) 28年度 24,000件				

活動計画	活動の状況	順調			
どうやって目的を達成するか 市民活動サポートセンターを拠点に、NPO・ボランティア団体に関する総合的な相談受付、NPO・ボランティア活動情報の提供、専門講座・講演会等の研修・啓発を実施します。	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック				
活動指標	指標	上段: 23年度実績 下段: 24年度実績	25年度目標	25年度実績 (達成率)	活動の状況 評価理由
	講座実施数	3 講座	5 講座	12 講座	市民からの要望があった対象を絞り込んだ講座を追加開催した結果、設定した目標を達成したため、順調としました。
	今後、市民活動に携わりたい方々への啓発や、既に活動に取り組んでいる団体の運営強化、活動の充実を支援する講座を開催します。	6 講座		240.0 %	
	広報誌などの発行	12 回	12 回	12 回	
	市民活動に取り組む団体等に、他団体の活動やイベント、助成金など、活動に役立つ情報を提供するため、広報誌を発行します。	12 回		100.0 %	

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」 (同成果を低コストで) 「効率性」 (同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点	例年実施しているNPO入門セミナーに加えて、法人運営に関する必要な基礎知識の習得のためのNPO法人入門説明会を開催した結果、新たに13団体のNPO法人が設立され、既存法人の組織や活動の強化が図られました。 成果指標、活動指標ともに概ね目標を達成できたので、順調と判断しました。
	市民活動サポートセンターは、公共施設の活用により行政窓口の一部として運営しており、職員に加えてボランティアによる専任の相談員を配置するなど、市民が利用しやすい環境づくりに努めています。	

P D C A チェックシート (平成 25 年度実績評価)

担当局	市民文化スポーツ局
担当課	市民活動推進課
課長名	山田

事業概要						
事業名	「NPOとの協働によるまちづくり」人材育成事業					施策番号
						Ⅲ - 3 - (3) - ②
事業概要	NPO等や市職員を対象とした、団体相互間の協働に関する理解を深めるための研修を実施します。また、地域課題解決について、多様な主体が参加するワークショップを開催します。					事業手法 <input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()
	コスト	25年度当初予算額	25年度執行額	(事業費備考)	人件費	
	1,940 千円	1,179 千円			課長 0.10 人 係長 0.10 人 職員 0.20 人	

【Action】改善

課題	H23年度の評価結果を受けての課題	NPOとの協働についての研修参加者数は順調に目標を達成しましたが、協働については、関係者によってそれぞれの思いや捉え方が異なることが課題としてあげられます。引き続き市民活動や協働についてのより具体的な理解を促進する必要があります。	見直し内容	協働のあり方に関する基本指針に基づき、まちづくりの人的ネットワークの構築等に力を入れることで、協働による住みよいまちづくりに資する人材の育成を図ります。
----	-------------------	---	-------	--

【Plan】計画

【Do】実施 → 【Check】評価

目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	順調
目的	市民活動団体等	多様化・複雑化する市民ニーズに対応しながら、更に質の高い市政運営を進めていくためには、行政とNPO・市民活動団体とのパートナーシップを積極的に推進し、協働して地域課題の解決に取り組むことが重要です。そのため、協働を進めるための環境づくりや意識醸成を図ります。	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	順調
	代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方) NPOとの協働についての研修への参加者数(累計) 市民活動に対する理解を促進し、NPOとの協働に対して理解を深めるための研修への参加者の累計を評価の指標とします。 (最終目標と目標年度)平成28年度までに参加者数700人 (最終目標と目標年度)	上段:23年度実績 下段:24年度実績 297 人 430 人	25年度目標 400 人(累計)	25年度実績(達成率) 536 人(累計) 134.0 %

活動計画	活動の状況	順調	
どうやって目的を達成するか 協働についての理解を広めるため、職員研修や市民向け研修を開催します。また、より良い協働事業の実現のため、協働事業の担当者と団体関係者との合同セミナーを開催し、協働推進に必要な人材の育成を図ります。	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	順調	
指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明) セミナー開催数 活動指標として、協働理念の普及を推進するために実施するセミナーの開催数を評価の指標とします。	上段:23年度実績 下段:24年度実績 2 回 2 回	25年度目標 2 回	
		25年度実績(達成率) 3 回 150.0 %	活動の状況 評価理由 NPO、地域、市職員等様々な主体が研修に参加し、目標を達成しました。協働への関心の度合いが高まりつつあると考え、順調と判断しました。

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	協働についての理解を広めるため、職員研修や市民向け研修を開催しました。また、より良い協働事業の実現のため、各団体間のネットワーク構築やコーディネート力を発揮するための研修などを通して、協働によるまちづくりのための相互理解が進んだと考えます。
	【経済性】 (同成果を低コストで) 【効率性】 (同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点	協働によるまちづくりを進めるためには、市民みんなが、力をあわせて取り組むことが必要となります。市が仲介することで協働の促進がより進む部分があり、市の関与は有効です。

P D C A チェックシート (平成 25 年度実績評価)

事業概要						担当局	市民文化スポーツ局
						担当課	文学館
						課長名	米満
						施策番号	
事業名	文学館普及研究費					事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()
事業概要	北九州市ゆかりの文学者の業績を企画展等で紹介し、本市の文芸の振興に功績のあった文学者を市内外に発信していきます。						()
コスト	事業費	25年度当初予算額	25年度執行額	(事業費備考)	人件費	目安の金額	課長 0.50 人 係長 0.50 人 職員 0.25 人
		20,104 千円	18,923 千円			12,625 千円	(人件費備考)

【Action】改善

課題	H23年度の評価結果を受けての課題	平成24年度の文学館の入館者数は、夏休み企画展が好評だったため前年度と比較し増え、目標を達成しました。引き続き、特別企画展や企画展、講演会や文学講座等のイベントを実施し、入館者の拡大に努めます。	見直し内容	定期的に魅力ある企画展を開催するとともに、文学に関心を持ってもらう講座を実施し、大人から子どもまで文学に親しむ機会を提供します。
----	-------------------	---	-------	--

【Plan】計画

【Do】実施 → 【Check】評価

目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	順調
	市民	北九州市ゆかりの文学者の業績を企画展等で紹介し、本市の文芸の振興に功績のあった文学者を市内外に発信することにより、大人から子どもまで文学に親しむ機会が拡大し、豊かな感性の育成と教養文化の向上に繋がります。			
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	成果の状況 評価理由
	文学館企画展の入館者数	10,741 人	13,000 人	13,211 人	
	本市ゆかりの文学者や全国的に著名な作家などの展覧会のほか、文学に関連する企画展を充実させ、多くの方へ偉人・先人の業績を伝えます。 (最終目標と目標年度) 13,000人 平成25年度	13,349 人			101.6 %
	(最終目標と目標年度)			%	

活動計画	どうやって目的を達成するか	より多くの市民に文学館の存在を知ってもらい、文学館に親しんでもらうため、文学館の本来目的である北九州ゆかりの文学者に関する自主企画展とともに、集客効果の高い(一般的な認知度と人気が高い)展覧会の開催に重点を置き、入館者数の増加に努めます。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	順調
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	活動の状況 評価理由
	企画展等の開催回数	4 回	4 回	4 回	
	文学の振興、教育、普及とともに本市にゆかりのある文学者と文芸活動をより多くの市民に紹介する手段として、企画展などの開催件数を活動の指標としました。	4 回			100.0 %
				%	

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、 外部要因などの視点	25年度は、24年度夏休み企画展「五味太郎作品展 絵本の時間」のような集客力のある(一般的な知名度の高い)パッケージ展の開催はなかったにもかかわらず、ほぼ24年度なみの入館者を維持し(H24 13,349人→H25 13,211人)、目標を達成することができました。 アンケートでは、企画展の内容について非常に高い評価を得ています。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	企画展は、毎回違う内容で実施するため、経済性・効率性の向上を図りにくいですが、できる限り最少の費用で最大の効果があげられるよう、毎回検討し企画展を行っています。

P D C A チェックシート (平成 25 年度実績評価)

事業概要 事業名 松本清張記念館研究センター・普及事業		担当局	市民文化スポーツ局
		担当課	松本清張記念館
		課長名	福田
		施策番号	
		IV - 4 - (1) - ②	
事業概要	【研究センター事業】①松本清張に関するあらゆる資料を収集・整理し、松本清張の「人と作品」を研究する調査研究・資料収集事業を行ないます。②松本清張研究者に奨励金を贈呈する研究奨励事業を行ないます。③研究誌を発行します。 【普及事業】①企画展を開催します。(年2回) ②講演会、読書感想文コンクールなどの市民文芸活動支援事業を行ないます。		■ 直営 □ 補助金 □ 全部委託 □ 負担金 ■ 一部委託 □ 指定管理 □ その他 ()
	コスト	25年度当初予算額 14,042 千円 25年度執行額 12,368 千円 (事業費備考)	目安の金額 23,250 千円 課長 0.50 人 係長 1.00 人 職員 1.00 人 (人件費備考)

【Action】改善

課題	H23年度の評価結果を受けての課題	活動の状況としては順調です。今後も松本清張研究会の開催や研究誌の発行等により市内外への情報発信を図ることや、多様で新しい切り口で企画展等を開催することが課題です。	見直し内容	さらに効果的な情報発信や魅力的な企画展等の開催をめざして、新たな研究・企画に取り組みます。
----	-------------------	---	-------	---

【Plan】計画

【Do】実施 → 【Check】評価

目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	順調
	市内外	松本清張記念館は、松本清張の多岐にわたる創作活動を企画展等で体系的に紹介し、清張とその時代の研究を行なうとともに、市内外に情報発信し、来館者の増加と本市のイメージアップを図ります。			
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	松本清張記念館の入館者数	49,731 人	60,000 人	49,575 人	入館者数6万人の目標達成は、かなり高いハードルであると考えています。年数が経過するにつれて入館者数の減少が予想されますが、ここ3年は約5万人で横ばいの状況となっています。減少傾向がとどまっているのは、企画展、講演会、研究誌発行等の活動や広報の効果があったものと評価しています。
	25年度に閉館15周年を迎え、今後、大きな節目(21年度の生誕100年等)のない時期での入館者数の増加は厳しいと考えられます。より魅力ある企画展等の開催はもとより、市政だよりをはじめ、様々な機会を利用した情報発信に努め、入館者数の増加を目指します。 (最終目標と目標年度) 60,000人 25年度	51,099 人		82.6 %	
	企画展入場者数の満足度	84 %	90 %	85 %	94.4 %
来館者案アンケートのうち企画展の内容についての設問で「非常に良い」「良い」といった満足度の高い評価の割合を高めます。 (最終目標と目標年度) 90% 25年度	89 %				

活動計画	どうやって目的を達成するか 開催した企画展の成果を分析し、新規入館者の増加及びリピータ率の向上を図ります。さらに魅力的な企画展・特別展を開催します。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	順調	
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	上段:23年度実績 下段:24年度実績	25年度目標	25年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	企画展回数	2 回	2 回	2 回	H25. 8. 1~11. 4企画展「松本清張と邪馬台国」 H26. 1. 18~5. 6企画展「北九州市と松本清張」 上記の企画展開催により、入館者数の確保に貢献しました。
	市民に質の高い作品などに接する機会を安定的に提供し、魅力ある企画展・特別展を開催します。	2 回		100.0 %	
				%	

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	平成25年度は2回の企画展を開催し、13,532人の入場がありましたが、内容についてもアンケート結果で好評を得ています。また、開館記念講演会、年2回の松本清張研究会の開催など質の高い文化に接する機会を提供しており、活動の状況としては順調と考えます。今後ともさらに魅力的な企画展等を開催することが課題と思われます。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点	委託業務については、コンペや予定価格の見直し等、経済的でより質の高い事業を行えるよう努めています。

P D C A チェックシート (平成 25 年度実績評価)

事業概要				担当局	市民文化スポーツ局	
				担当課	市民活動推進課	
事業名 市民活動団体等による環境未来都市推進支援事業				課長名	山田	
				施策番号		VI - 1 - (1) - ①
事業概要 北九州市環境未来都市計画では、「低炭素・省エネルギー社会の実現」「資源循環社会の推進」「少子高齢化社会に対応したまちづくりの推進」などが目標として掲げられています。この目標を達成するため、市民活動団体等の新しい発想や専門性を活かした提案を募集し、提案団体と市が協働して取り組む事業を支援することにより、協働の促進を図ります。				<input type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ()		
				(人件費備考)		(人件費備考)
コスト	事業費	25年度当初予算額 10,000 千円	25年度執行額 9,374 千円	人件費	目安の金額	課長 0.10 人 係長 0.20 人 職員 0.20 人
					4,650 千円	

【Action】改善

課題	H23年度の評価結果を受けての課題 NPOからの提案に対して、事業担当課と課題が共有できなければ、協働につながらないケースがあると考えられます。	見直し内容	NPOからの提案については、企画段階で事業担当課と時間をかけて協議を行い、担当課の意見も取り入れたところで企画書を提出できるようにマッチングを行っていきます。
-----------	---	--------------	---

【Plan】計画

【Do】実施 → 【Check】評価

目的	対象(誰を、何を) 市民活動団体等	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 北九州市環境未来都市計画の目標の達成及び市民活動団体等と市の協働の促進を目指します。	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	順調	
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)		上段: 23年度実績 下段: 24年度実績	25年度目標	25年度実績 (達成率)	成果の状況 評価理由
	市民活動団体等に対する補助金交付事業の件数(累計)		—	10 件 (累計)	11 件 (累計) 110.0 %	
北九州市環境未来都市計画の目標の達成に向けた事業への補助交付件数の累積を評価の指標とします。				6 件	目標を達成したため、順調としました。NPOの専門性や新たな発想を活かし地域の課題解決につながる事業が実施できたと考えます。	
(最終目標と目標年度) 平成28年度までに23件				%		
(最終目標と目標年度)				%		

活動計画	どうやって目的を達成するか 市民活動団体等及び市職員に対して、市民活動団体等と市の協働についての理解の浸透を図ります。また、当事業の説明会開催、ホームページ・メールニュース・チラシなどにより、市内の市民活動団体等に幅広く周知を図ります。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	順調		
活動指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)		上段: 23年度実績 下段: 24年度実績	25年度目標	25年度実績 (達成率)	活動の状況 評価理由
	成果発表会及び市民活動団体等と行政との協働研修の参加人数(累計)		—	200 人 (累計)	246 人 (累計) 123.0 %	
市民活動団体等と行政との協働についての理解の浸透を図るため、事業実施団体による協働の成功事例についての成果発表会、及び市民活動団体等と行政の協働研修を実施します。				136 人	目標を達成したため、順調としました。	
				%		

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	平成25年度は5事業に対して補助金を交付しました。補助の対象となった事業は、いずれも先進的で団体の専門性や特性が活かされ、市との協働による相乗効果が発揮された事業であり、成果の状況は順調と判断しました。
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点	地域の実情に精通した団体や専門性・先駆性を有する団体が市と協働したことで、より効率的な事業が実施できたと考えています。